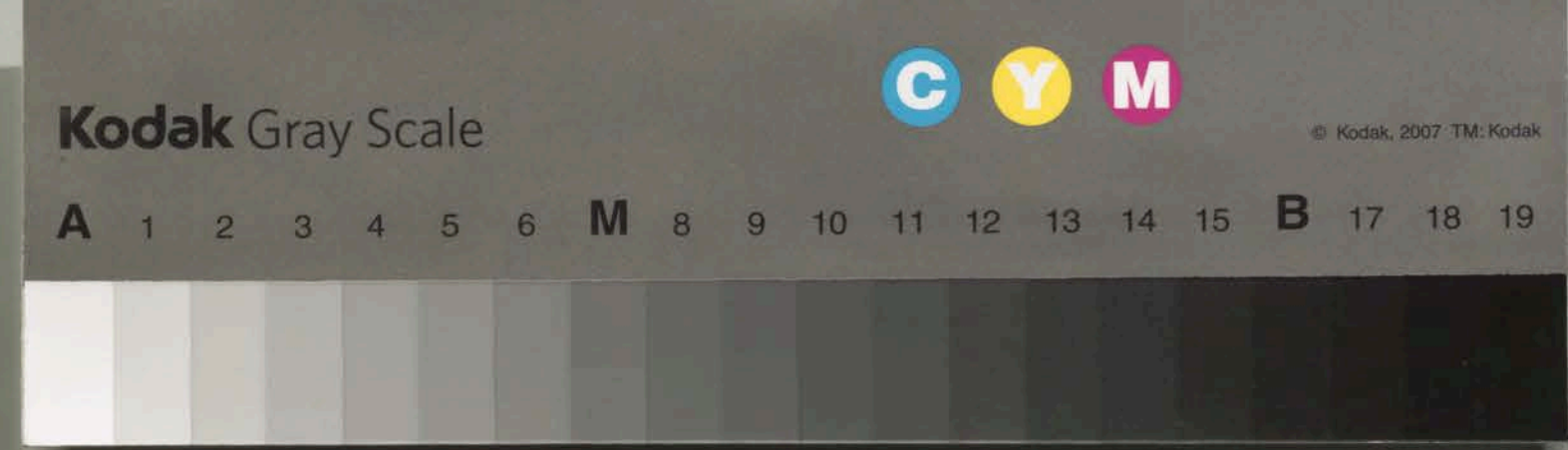


142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

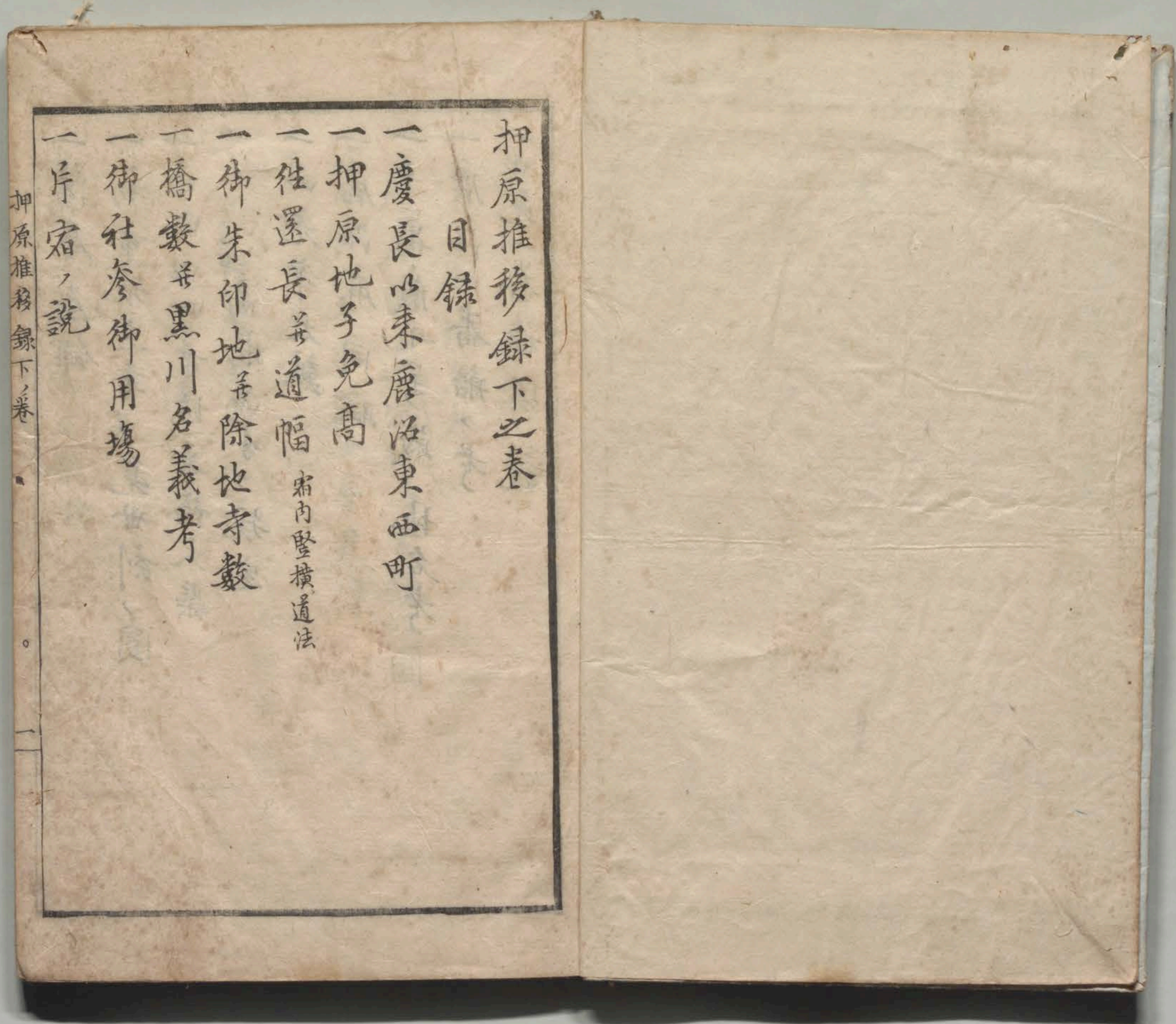
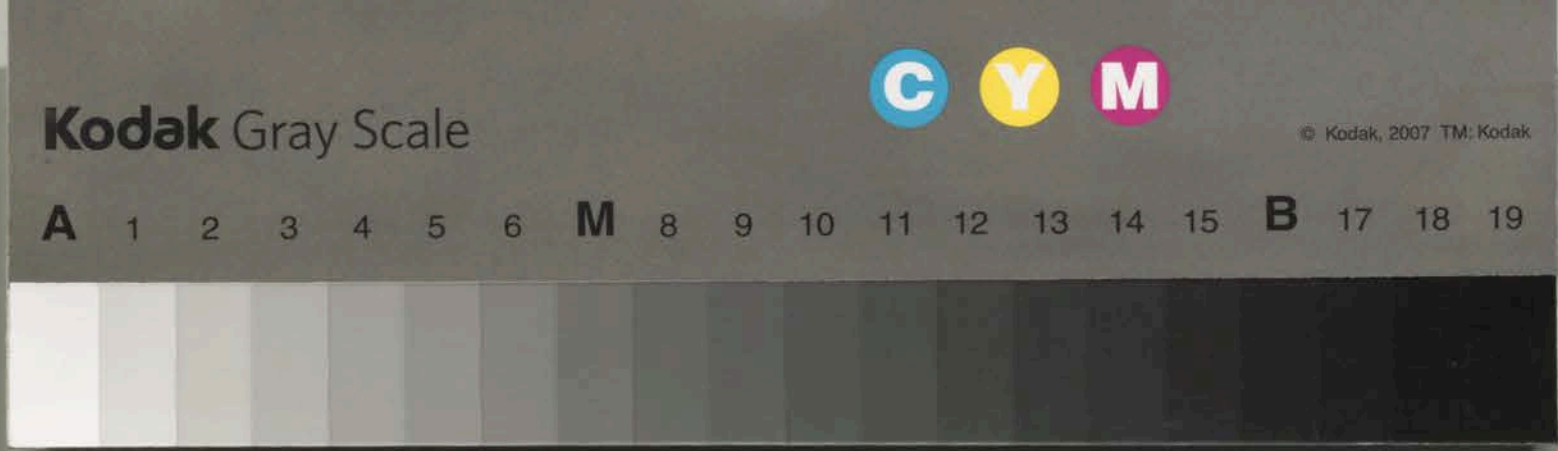




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下之卷

目録

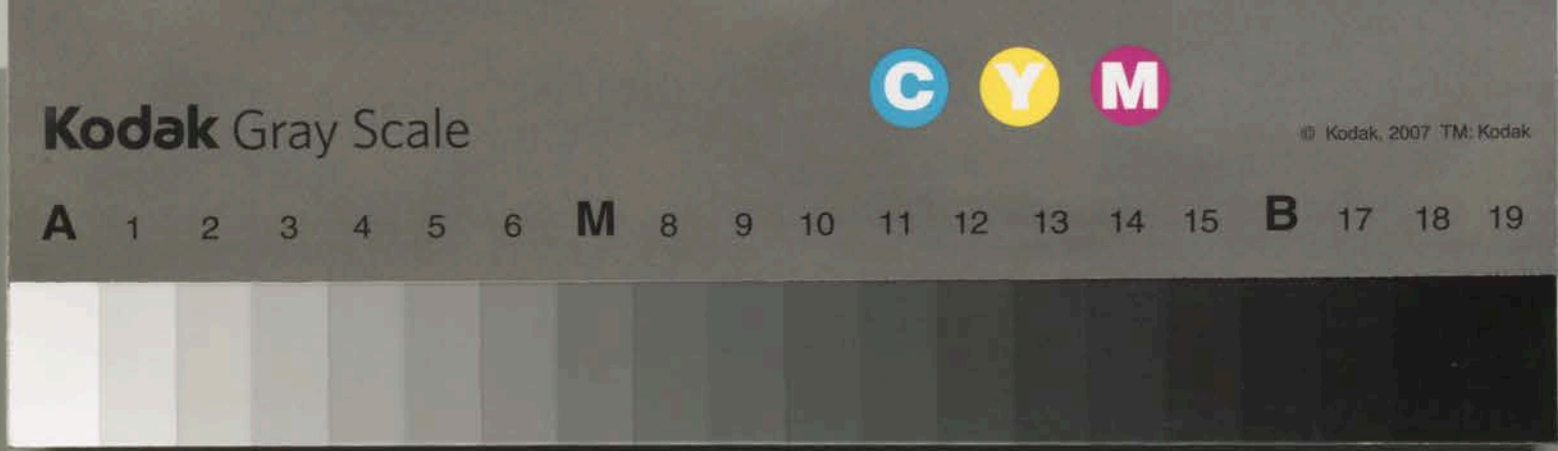
- 一慶長以来鹿沼東西町
- 一押原地子免高
- 一往還長并道幅 省内堅横道法
- 一御朱印地并除地寺數
- 一橋數并黒川名義考
- 一御社参御用場
- 一斥宿ノ説

押原推移録下卷

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





一陣屋 全鋪
 一初市規定書 並見世刻ノ圖
 一内町田町市場爭論大槩
 並高物品分ノ規定
 一西光寺太鼓
 一鹿沼麻 同晒
 一十萬歲十萬歲ノ地名考
 一鹿沼一番船ノ考
 一日光一番禪頂ノ説

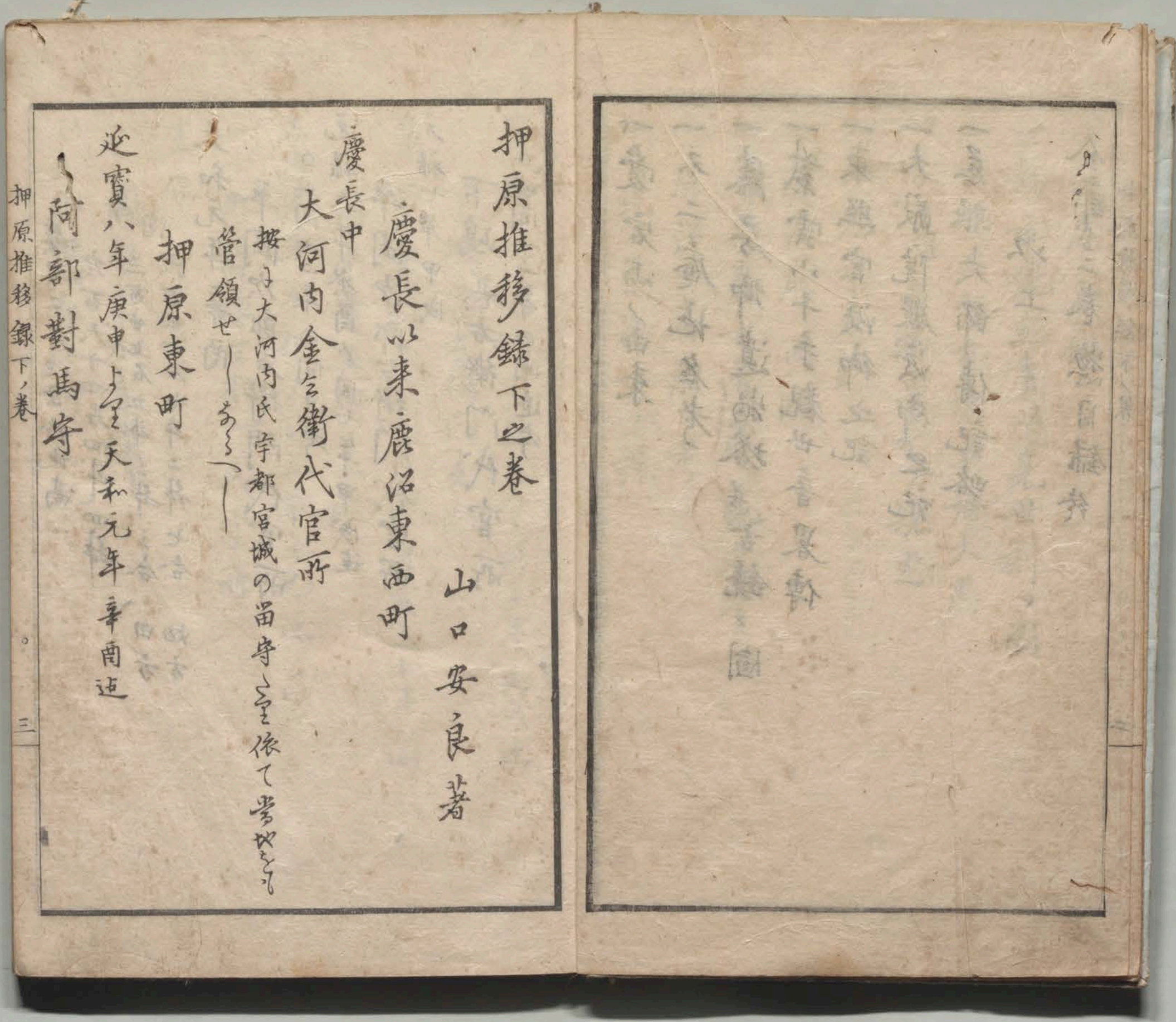
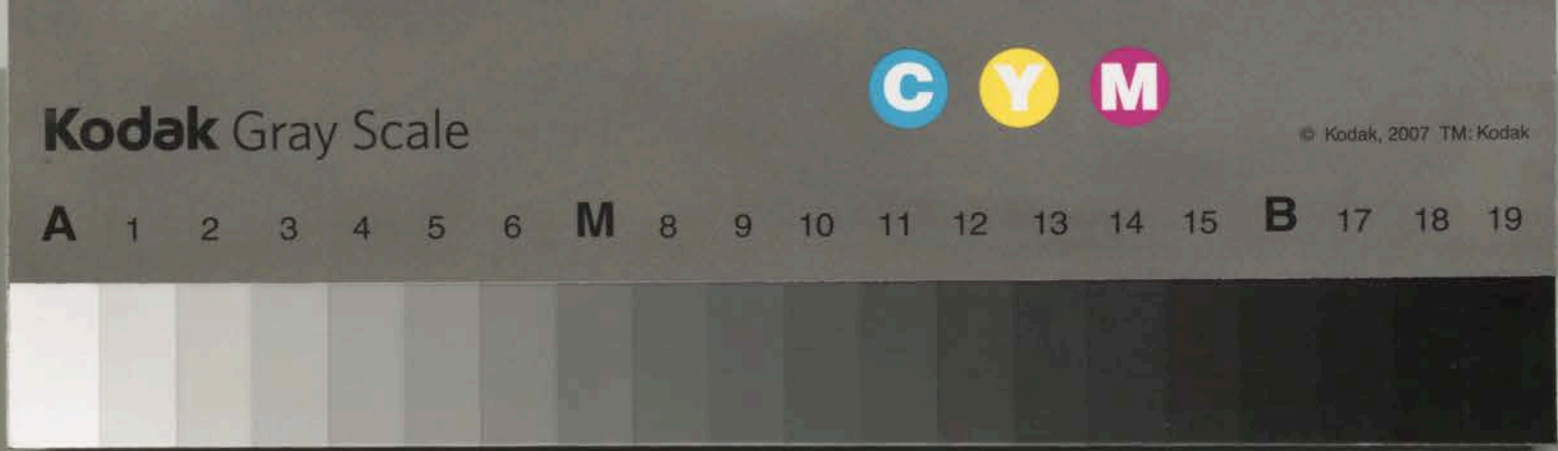
一愛宕山ノ由来
 一不二庵地名考
 一藤房卿遺物塔 並古鏡ノ圖
 一紫雲山千手觀世音畧傳
 一東照宮渡御之記
 一大猷院殿渡御之記
 一慈眼大師傳記略
 以上

全部三卷惣目録終
 押原推後録下ノ卷

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下之巻

山口安良著

慶長以来鹿沼東西町

慶長中

大河内金左衛門代官所

按子大河内氏宇都宮城の苗守に依て管領せしむる

押原東町

延寶八年庚申より天和元年辛酉迄

阿部對馬守

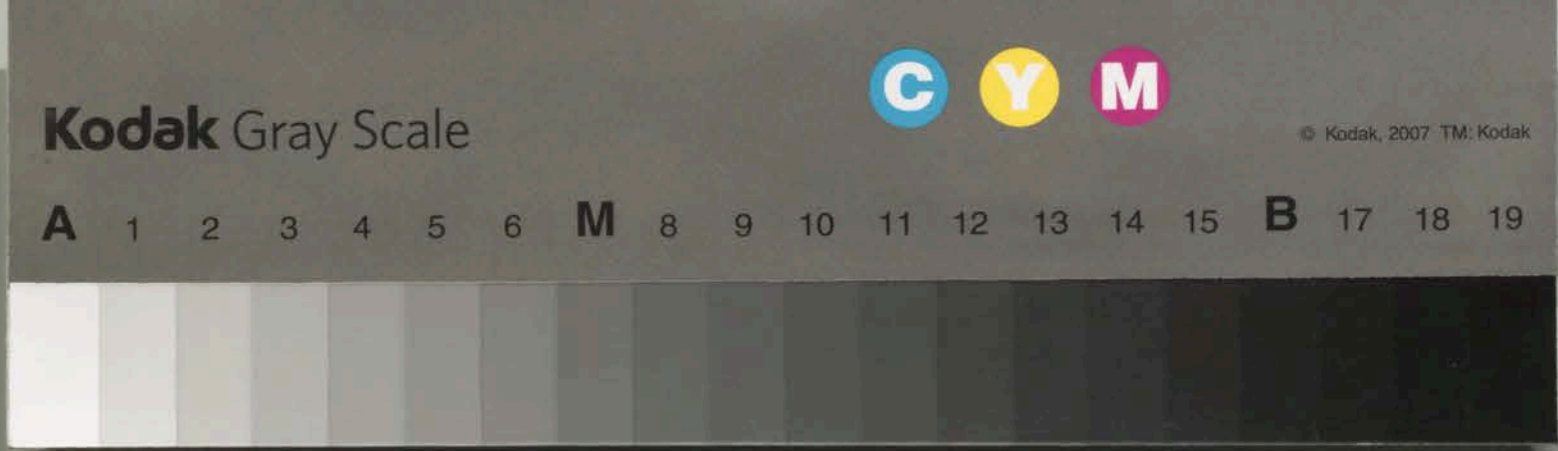
押原推移録下之巻

Handwritten list of entries on the right page, including names and dates.

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





慶安二年己丑拾地高
 九百六十四石四斗四升
 内 三百廿五石五斗三升三合 田方
 六百卅七石七斗二升七合 畑方
 天和元年辛酉
 平岡次郎右衛門代官所
 ○此間十二年の間追考
 元禄六年癸酉同七年甲戌迄
 平岡次郎右衛門代官所
 元禄七年甲戌
 下嶋甚右衛門代官所
 ○此間十一年の間追考

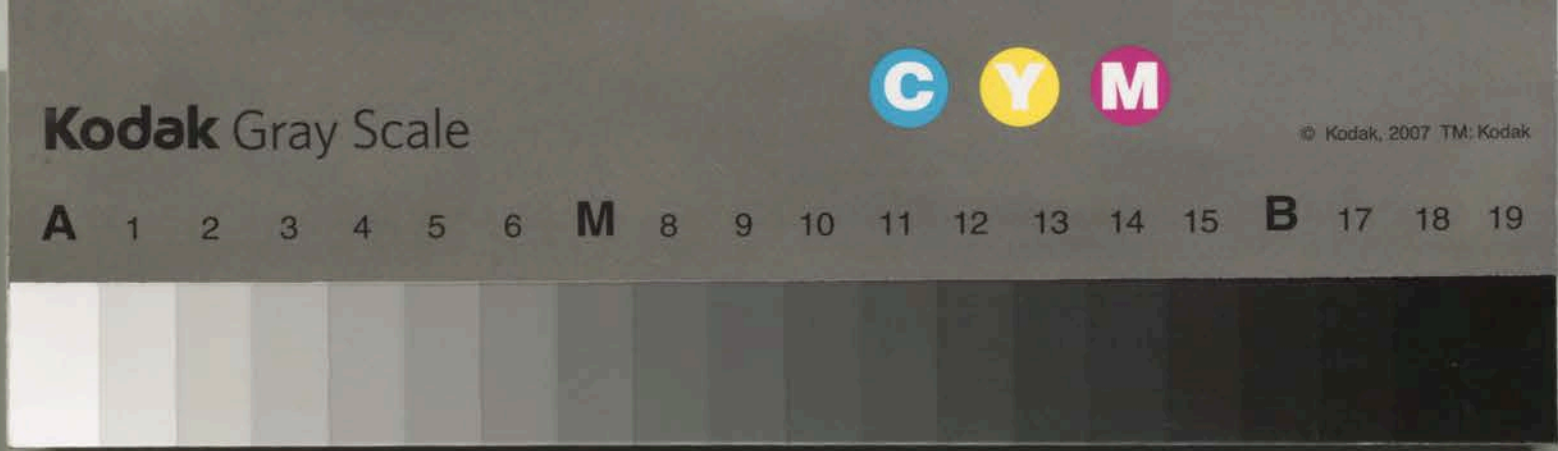
寶永二年乙酉十二月より同三年丙戌迄
 下嶋甚右衛門支配
 寶永三年丙戌同七年庚寅迄五年の間
 河原清兵衛支配
 正徳元年辛卯同三年癸巳迄三年
 町野惣右衛門代官所
 享保四年己亥
 岡田庄太夫預り
 山田八郎兵衛支配

押原推移録下ノ巻

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





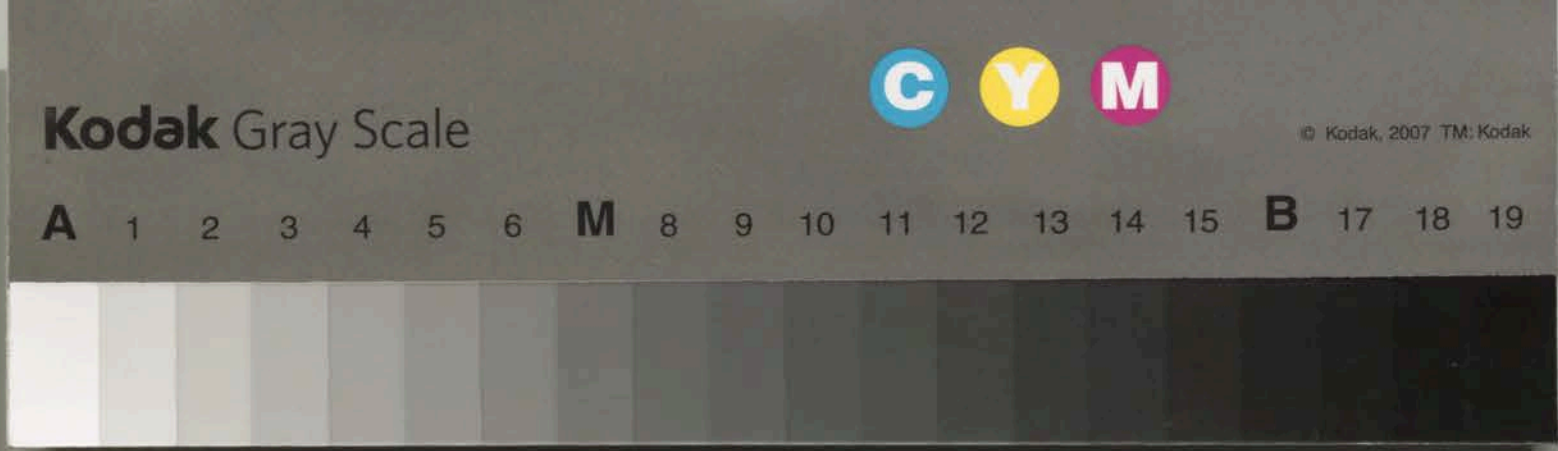
同其月御勘定支配
 丹澤久左衛門
 紫田金右衛門
 同五年庚子分同六年辛丑迄
 山田八郎兵衛支配
 同七年壬寅
 池田新兵衛支配
 押原西町
 慶安二年己丑

諸星庄兵衛代官所
 高室喜三郎拾地高
 七百十九石二斗六升八合
 内 二百五十五石四升六合 田方
 四百六十四石二斗二升二合 畑方
 同年
 内田出羽守領 寶永年中 信濃守一改
 享保十年己巳分東西町同支配
 鈴木平十郎支配
 同十四年己酉
 中嶋内蔵助支配
 押原推移録下ノ卷

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





同十五年庚戌
 後藤庄左衛門支配

同十七年壬子
 池田新兵衛支配

元文五年庚申
 石原半右衛門預り
 辻六郎右衛門預り
 同年庚申
 延享元年甲子迄

早川安左衛門支配
 延享元年甲子
 寛延三年庚午迄

田中八兵衛支配

寛延三年庚午
 寶曆六年丙子迄

野呂猪左衛門支配
 寶曆六年丙子
 七月廿十二月迄

吉田久左衛門支配
 同七年丁丑

横尾六右衛門支配
 同九年巳卯

横山傳右衛門支配
 同十年庚辰

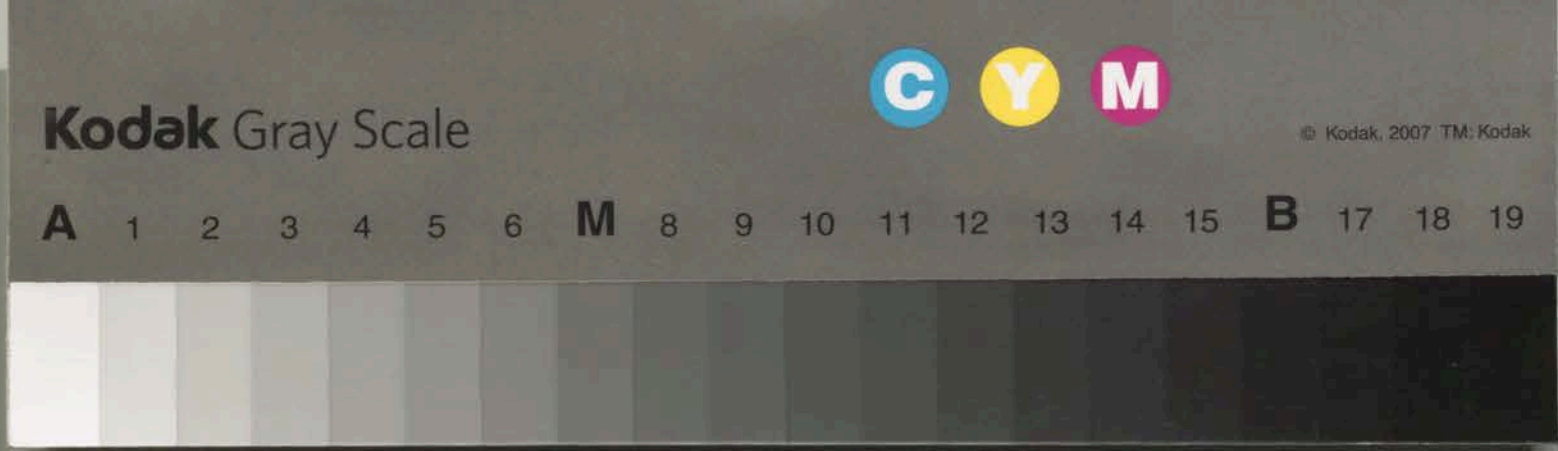
平岡彦兵衛支配

押原推後録下ノ卷
 六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





詞
級

同十一年辛巳 久保平三郎支配
 明和元年甲午 内方鉄五郎支配
 同二年乙酉八月 鷄飼左十郎支配
 同七年庚寅 飯山伊兵衛當分預り
 遠藤兵右衛門 同
 同八年辛卯十二月迄 布施弥十郎支配

同年辛卯十二月分 川崎市之進支配
 安永四年乙未分 宇都宮領
 押原地子免高
 押原地子免三千六百坪
 此分末十二石
 右寛永十七庚辰年御免、相成休、但し
 御年貢上納の内、門十二石分、代永年
 人島役勤者、刻賦成

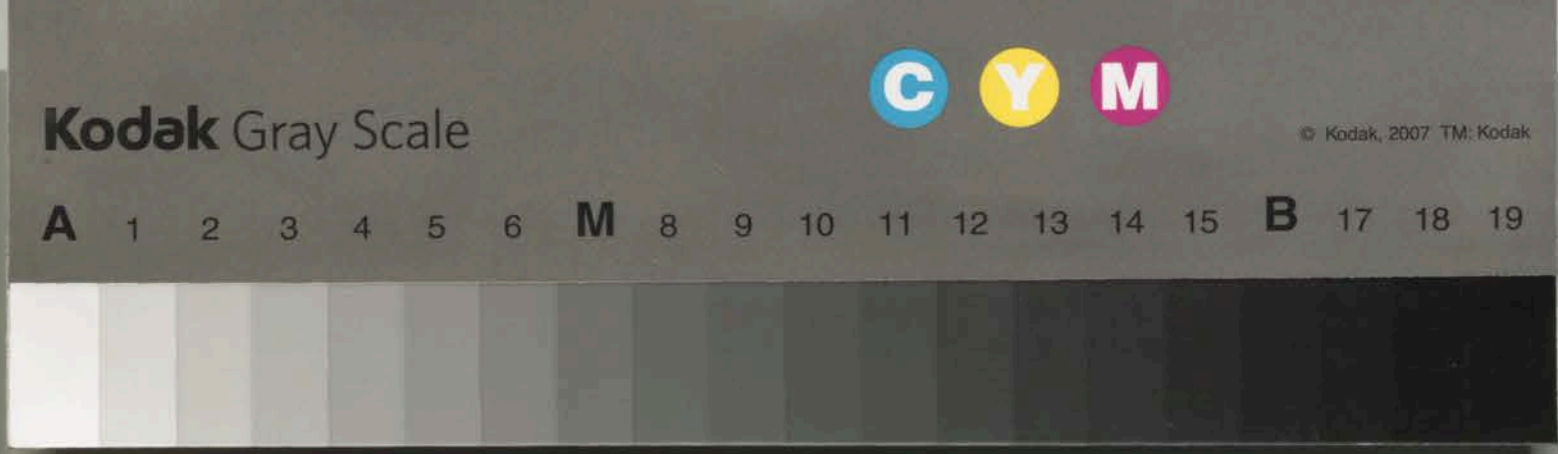
押原推移録下ノ巻

七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下ノ卷

往還長 並道幅 宿内堅核道法

村井塚 武子塚 宿地内往還長三十五丁
半道幅平均四間程

但村井塚 宿入口迄三百一十一間宿出口迄
武子塚迄

西側千武百十六間 此里數廿丁十六間

東側八三十間餘計迄

御神領塚 奈原塚 迄三里
肉拾丁八間 本戸内

八幡臺茶屋 當宿 寺里三丁程

御高札場 武子塚 廿三丁
村井塚 十二丁半

境石茶屋 當宿 廿四丁余
文様 十八丁余

江戸方 三ツ家茶屋 奈原 十八丁程

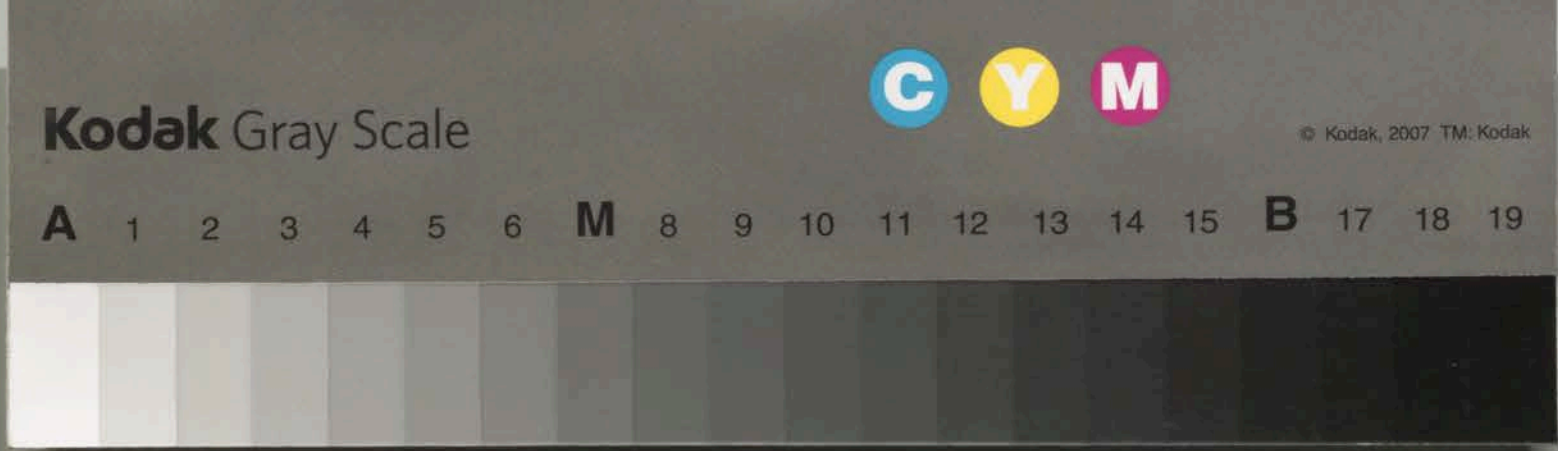
當宿 東西 廿六丁程 南北 三十三丁程

東	千度村 寺里	福岡村 廿里
西	西鹿沼村 十五丁	深津村 寺里半
南	日向村 廿五丁	花園村 十丁余
北	村井村 十八丁	酒谷村 三十丁
	武子村 廿里	上殿村 十九丁
	五田村 廿六丁	塩山村 廿五丁
		富岡村 廿里
		見野村 廿丁

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下巻

九

當宿東^上十五丁程西^上十一丁程南^上十二丁程北^上

廿三丁程

所並内所通り十町十八間程

寺町 九十四間程 下支木所 五十四間程

石橋町 六十五間程 中町 八十間程

久保町 百十三間程 天神町 百間程

上支木所 百十間程 外張 四十四間程

出張 四十八間程

田町通り 六町三間

下田町 百七間程 中田町 百三十間程

上田町 百廿五間程

但し何寺も寺地門前共ニ築留^上築留^上迄

御朱印地并除地寺數

一御朱印 五拾石 今宮境内別所 今宮大權現

一御朱印 十石 内町西側金剛定寺末 神宮寺

一御朱印 十石 真言宗 藥王寺

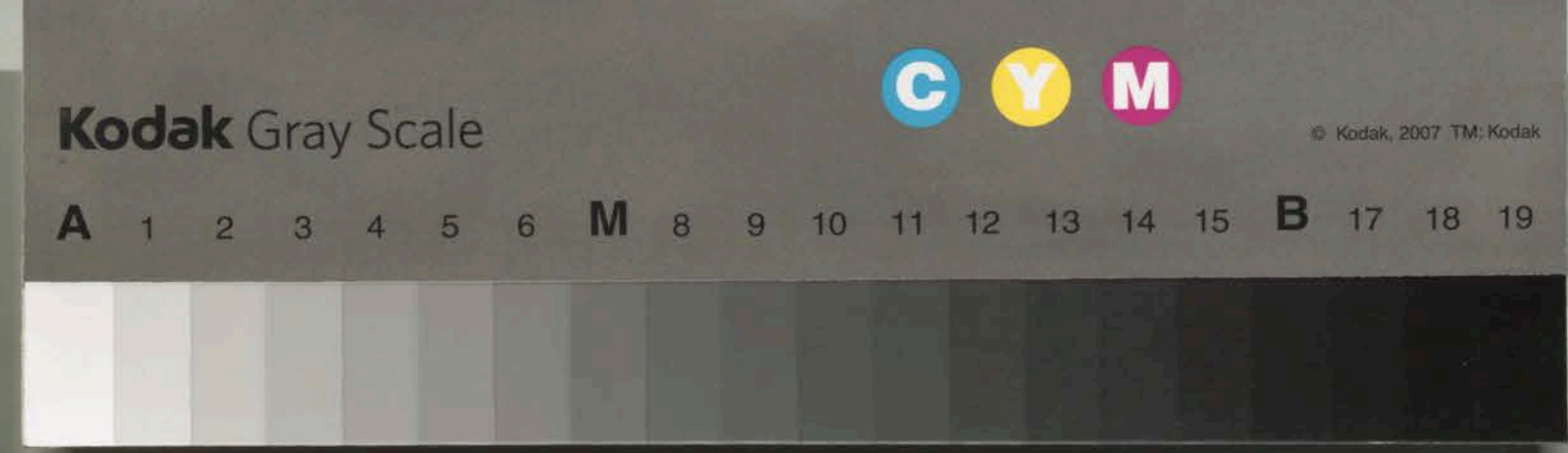
一御朱印 三石 寶藏寺末 寶藏寺

一御朱印 千石 千手院

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





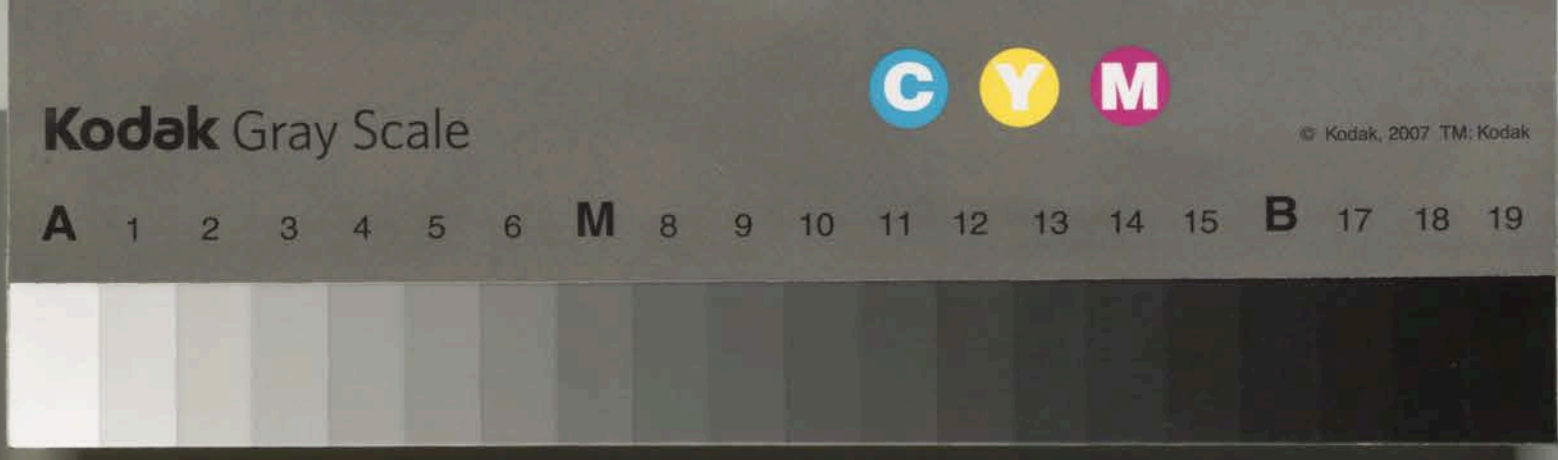
押原推移録下, 卷

一御除	久保町重裏藥王寺末	華藏院
一同	今宮社人	福田駿河
一同	今宮承仕	新右衛門
一同六石六斗七升六合	寺町西側 知恩院末	雲龍寺
水帳三除	淨土宗	
一同	天神町天神別當	實相院
一同	藥王寺門徒	
一同二反步	田町西側	十二社權現
一同	十二社院內寶藏寺門徒	大聖院
一同	別當	持明院
一同一及二畝步程	近江國蓮花寺末 時宗	西光寺
外田方二反五畝步程	寶藏寺門徒	金乘院
一同九町廿四步	新町同門徒	普賢院
一同	新町	圓德院
一同	堀内八畝步程	清正菴
一同	雲龍寺堀内	西光院
一同	内町寶藏寺門徒	寶積院
一同	同門徒	山德院
一同一及步	上横町藥王寺門徒	

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

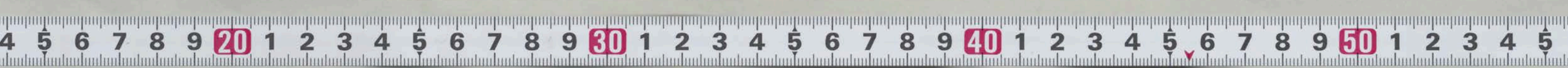


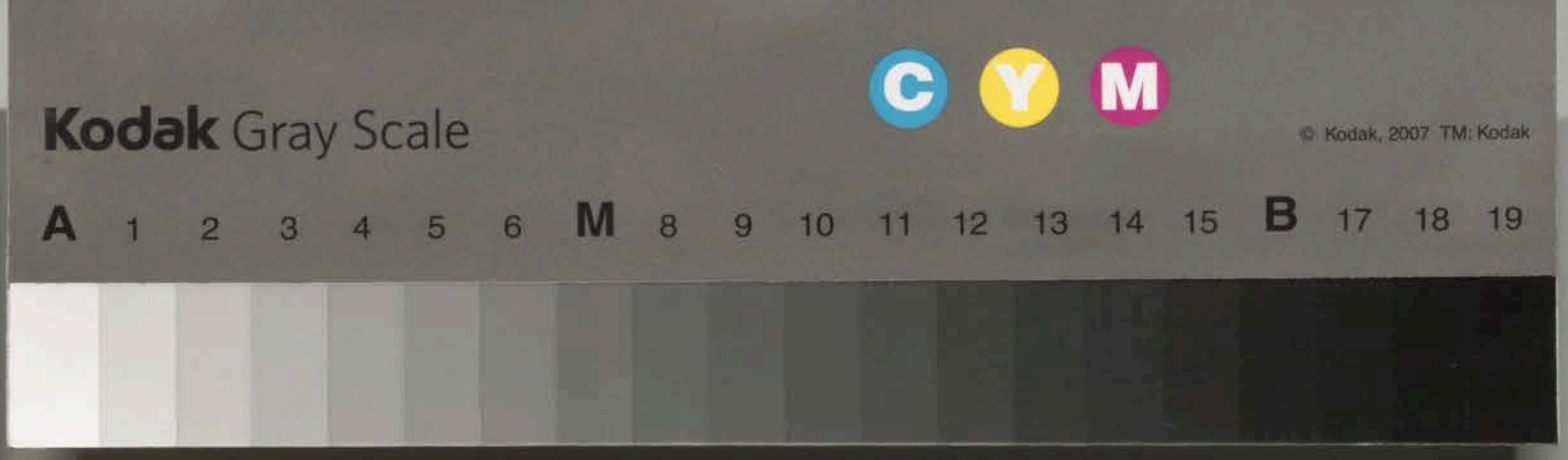


同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
八畝廿步程	四及二畝十二步	御年貢地	除地	橋數	黒川名義考	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	
持寶院	安穩寺	清林寺	安養院	本心院	崇球院	多聞院	松原寺	蜜蔵院	向乘院	長光院	光照院	泉院	勝善宮	別當	別當	別當	別當	別當	
下横町寶藏寺門徒	上横町念門徒	宮街通宇都宮清嚴寺末 浄土宗	同地内	藥王寺御朱高 役寺	雲龍寺境内	寶蔵寺門徒	玉田村瑞光寺禪宗	寶蔵寺門徒	江戸湯嶋雲雲寺末 律宗	田町下 全浅州正徳院願下 天台宗	田町下 全神田法開寺下修元 真言宗	全 長光院下	上之本町西 今日黒一月寺末 普化宗	新町坂下雲龍寺末					
長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	長九尺	長二間	

押原推移録下巻

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書 C46-9-3





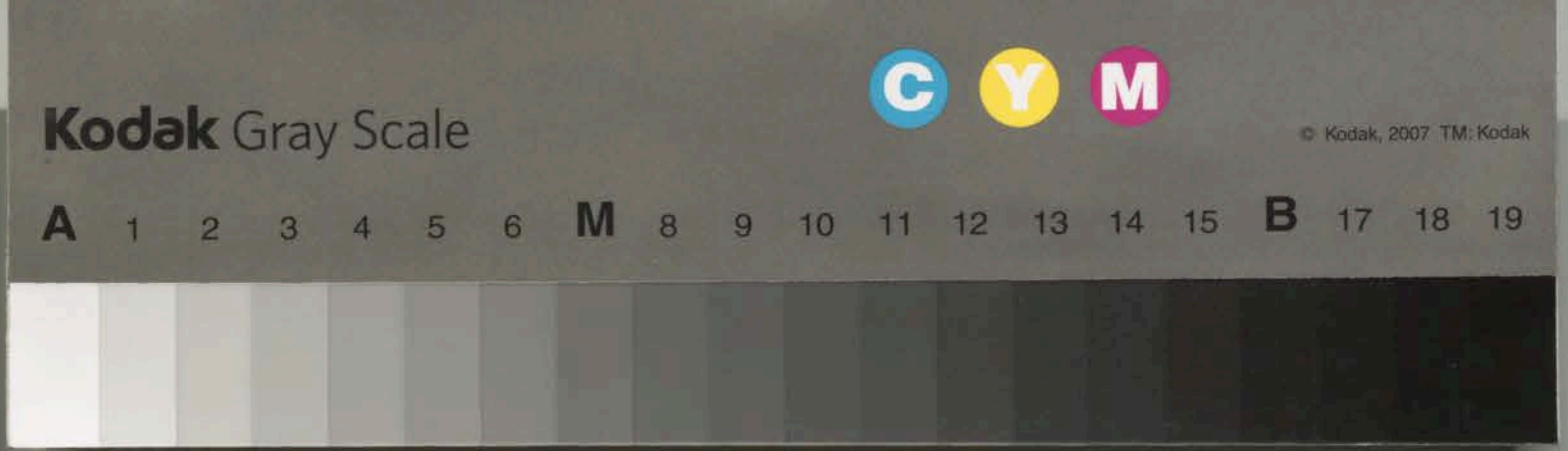
右同の 字 字文治郎後	右同の 字 字玄頂後	右同の 字 字同 道上	右同の 字 字上殿道下	田町 字 字通 用水	往用水 字 字汁 谷	往用水 字 字是 自 普通	是 八 府 西 村 用 水 引 依 故 方 用 唱 束 り 〆	追分 字 字松並	追分 字 字府所橋	右同の 字 字久兵衛前	右同の 字 字星宮前	右同の 字 字宿入口	右同の 字 字上村木町	右同の 字 字寶藏寺前	右同の 字 字上横町過	右同の 字 字下横町過	右同の 字 字雲龍寺前	右同の 字 字寺所	右同の 字 字西ノ東ノ後上橋
石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	土橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋	石橋
中長 六尺 七尺	中長 四尺 四尺	中長 四尺 五尺	中長 一尺 一尺	中長 一尺 一尺	中長 二尺 三尺	中長 三尺 三尺	中長 二尺 三尺	中長 二尺 三尺	中長 九尺 五尺	中長 二尺 四尺	中長 二尺 四尺	中長 二尺 四尺	中長 二尺 六尺	中長 二尺 六尺	中長 二尺 五尺	中長 二尺 五尺	中長 二尺 九尺	中長 二尺 九尺	中長 二尺 九尺
十二																			

押原推移録下巻

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下ノ卷

右同以 宿入口 石橋 長一問 中七尺

右同以 百姓自善請 土橋 長一問 中七尺

右同以 字並木道 土橋 長一問 中九尺

右同以 善共兩田際迄 土橋 長一問 中九尺

右同以 字河原宿前 土橋 長一問 中九尺

合四拾五ヶ所 往還助 十九橋

内領主普請三十八ヶ所

往還通 一字御成橋 黒川 長廿八間 中七尺

一字平日假橋 土橋 長廿八間 中七尺

右同以 字田町合 石橋 長一問 中九尺

右同以 西ノ東ニ移ル橋 石橋 長一問 中九尺

右同以 字下田町 石橋 長一問 中九尺

右同以 字善八前 石橋 長一問 中九尺

右同以 字太郎兵衛前 石橋 長一問 中九尺

右同以 字下田町辻 石橋 長一問 中九尺

右同以 字上田町辻 石橋 長一問 中九尺

右同以 字同東側 石橋 長一問 中九尺

右同以 字同西側 石橋 長一問 中九尺

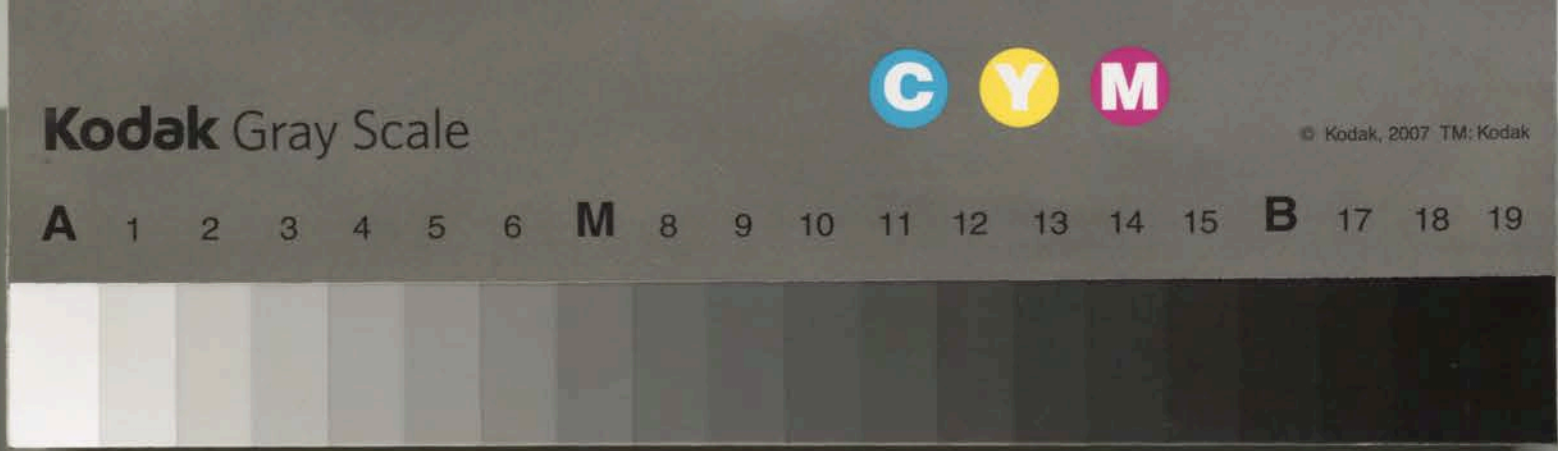
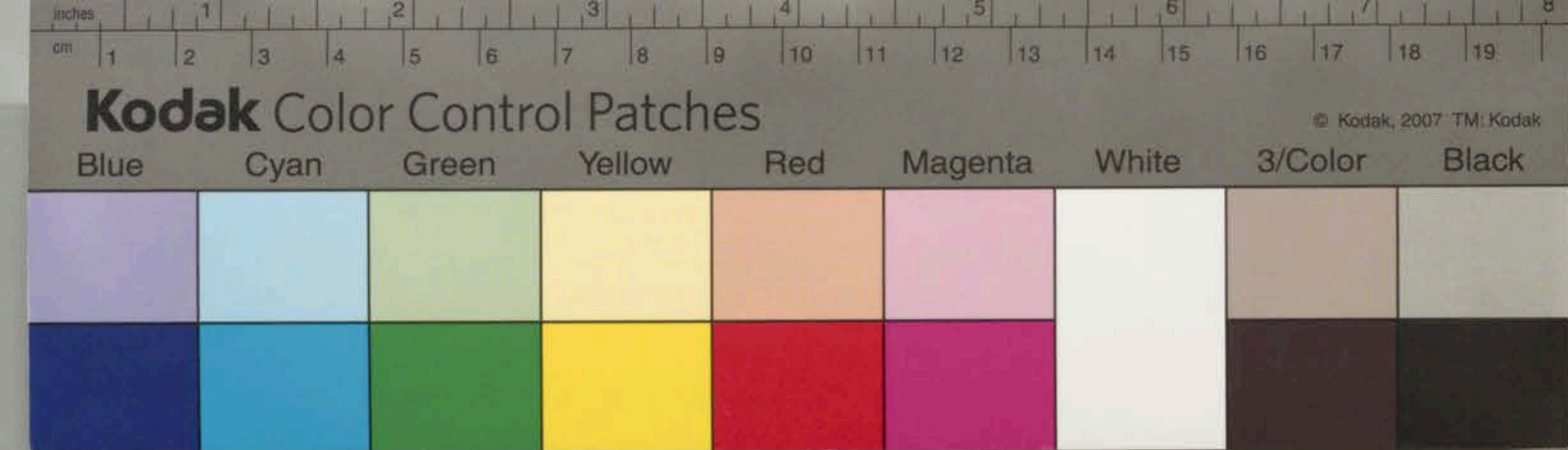
右同以 西ノ東ニ移ル橋 石橋 長一問 中九尺

右同以 字上田町 石橋 長一問 中九尺

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





橋流失之市ハ後之通河以
 右者先年々御普請所トモ日光
 御社奉御法會ホハ節ハ
 長 六十間
 幅 二間
 御材木大工手間ホ被下置人足ハ往還掃除丁場
 三十三ヶ村ハ以仰付一人ノ身云来五合宛被下平年
 自普請假措也
 此川ハ筋源ハ御神領小来川村山中ノ中流迄出
 一里程上滑川与落合黒川ト稱シ流きノ末
 四里余下壬生宿地内ニ小倉川与落合飯塚宿地
 内安川ト落合思川与唱ふましハ四里程川下
 本郷村ト利根川ト落合
 按ニ黒川ト名付ハクル川欵又コロ川ノ轉ゼ
 ともあるト水工小来川ノ水ヲ畧きて来川
 ト云一きをルト只音親ト通するハ也
 記リテコロト云ふト黒ノ文字ヲ假用
 り欵又来をコトといふ例ハ根来寺ヲ称ス
 寺ト訓ハ原由来川ト云来川ト云一きをル

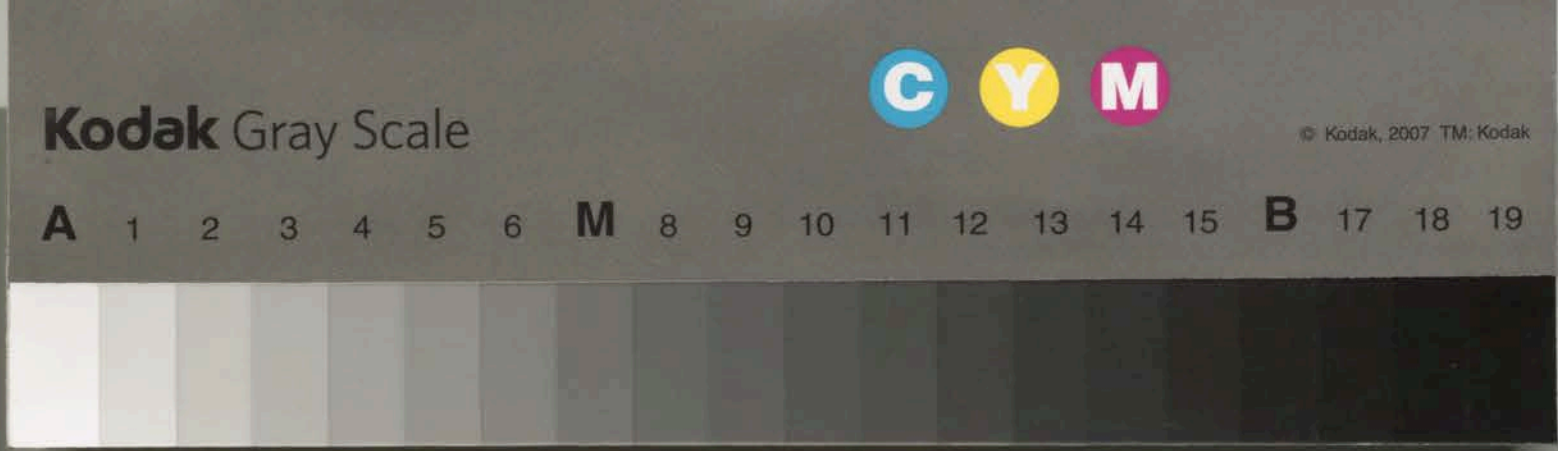
押原推移録下ノ卷

十四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

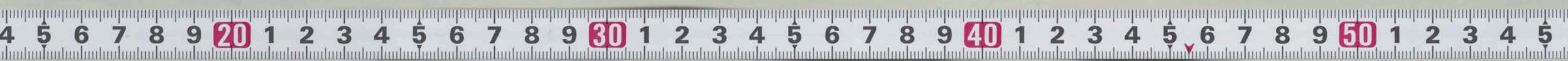


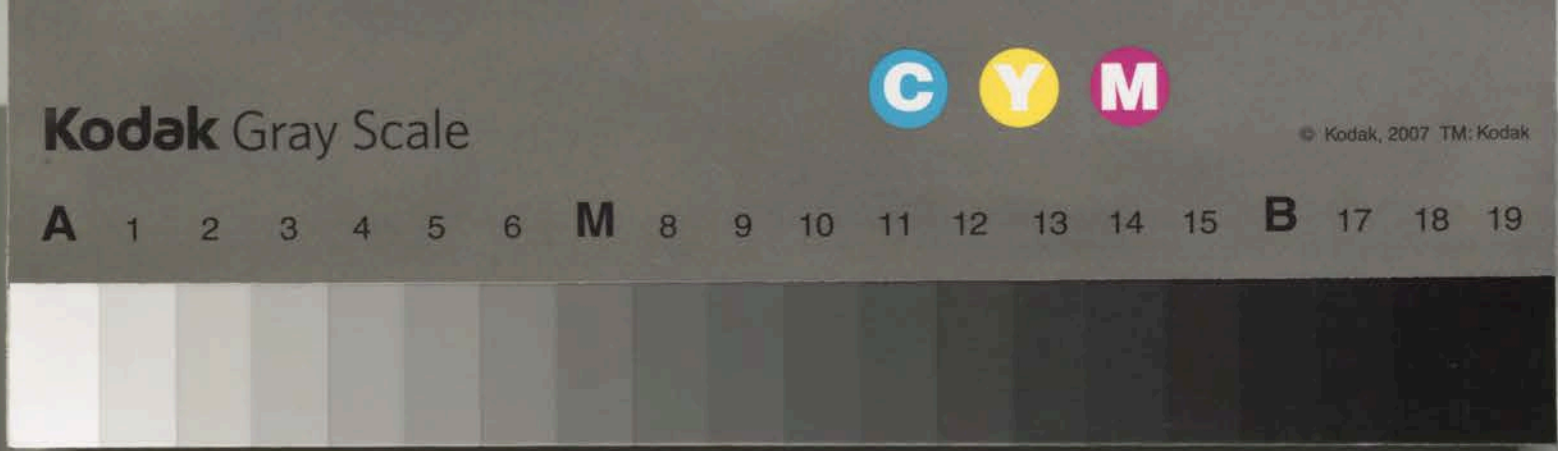


口も普通すゝゝゝゝに列川とつゝ欽
 御社参御用場
 御殿地
 南北 百二間
 東西 八十四間
 堀幅
 表 七間 深 一丈五尺
 左右裏六間八間迄深一丈二尺
 北ノ方 東西廿一間二十間
 南ノ方 十二間、四十二間半
 御用地
 此坪六千七百八十坪 當時八畑三成
 有、寛文三癸卯年 巖有院様日光
 御社参々々申當宿領主内田出羽守普傳々由
 其以前 大猷院様 御社参々々申當宿領主内田出羽守普傳々由
 御晝休のゝゝ 寺即光大寺脇愛宕山に遠見の
 番所掛り 御高札達 番所 出来核道
 野道木に番所を達足輕番人守り町上下合木戸際
 高五尺の堤を築大竹を以て矢来結おゝ
 御用水ハ寶藏寺の井々を汲い
 右井戸ハ當時埋きそゝ
 御賄小屋場三百六十坪程
 序宿ノ説
 押原推移録下ノ巻
 十五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





古老口碑云 大融院様 日光御社 寛永十三年丙子四月三日あり馬角一雙 東照宮の神庫に收むと元禄十年の年代 祀より内此時御側内田出羽守 以前、鹿沼あり一町 此町取立大名寶永 年中信濃守と改む 都賀郡酒ノ谷邊に領地ありて鹿沼驛に伺候に 上意云此宿を汝に取せん 此が日光 山往來の便りに宜しと也羽州畏て堅鋪拜受 仕候と申上りしり色内町西通り外町と合し町西通り序側宛下さき一六片宿の御間違ありと稱

陣屋 全鋪 四反七畝廿二歩
 右阿部對馬守様御領地の市右屋鋪の内
 に數々而御役所御建被成候處 御公料に
 ありし市明全鋪、外間全鋪、願上り御
 貢地、相成候し
 初市規定書并見世刻ノ圖
 定

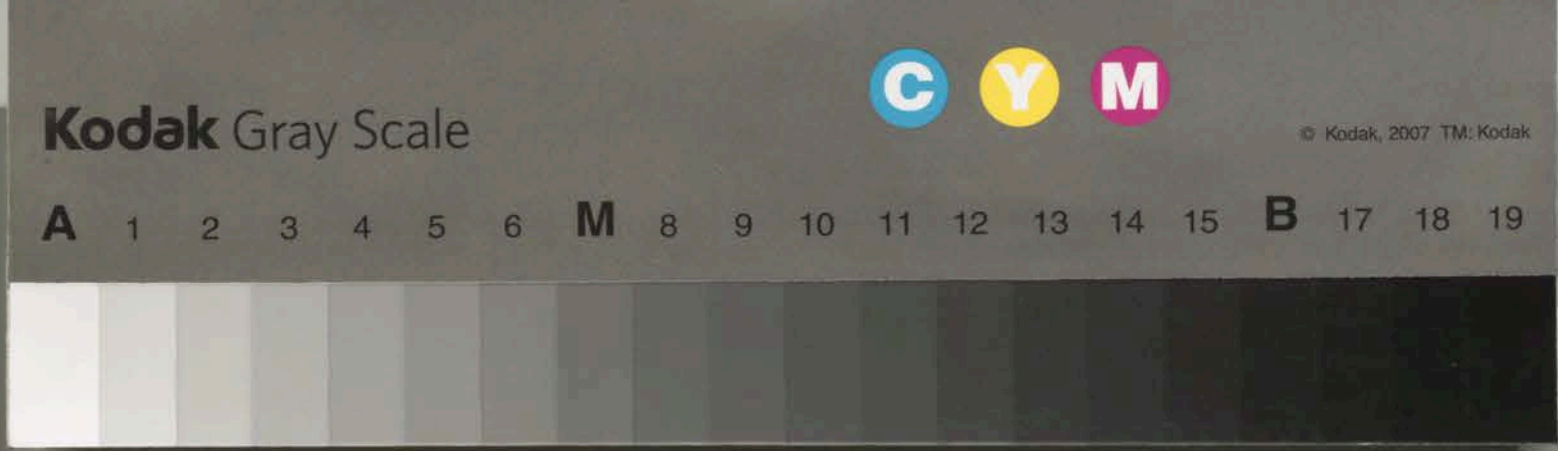
一野州押原唐沼町初市毎年正月十二日相立

押原推移録下ノ卷 十六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





中比花初市賣物之品十二日前八町中賣買先
 年之令一向相成不中見世之儀者往昔分大
 谷氏前相之儀事
 一天正年中之寫其後改名題雅分之次令般
 今宮大權現御本社御修覆之付移又改初市
 斗之志也く分差上之来り之品唯今之見世相守
 り者人數相違多分産之依之印形差上之
 但一見世任具之儀毎年大谷氏之差出之
 寶曆十二年正月十二日改

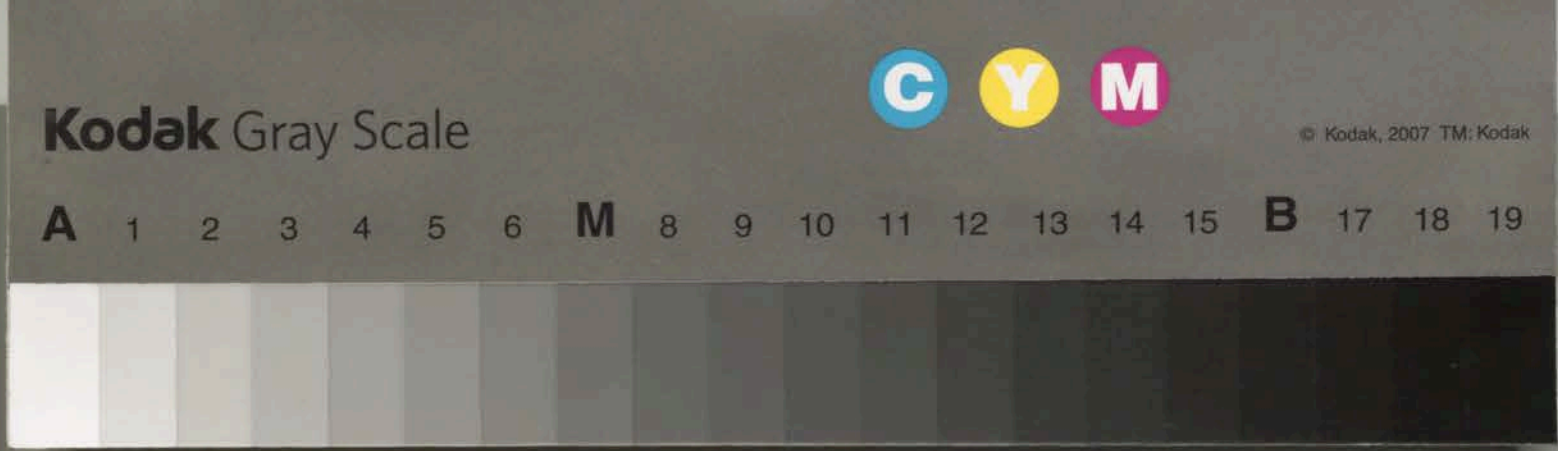
三宮司 福田駿河守印
 柿沼攝津守印
 大貫佐渡守印
 大谷瀬兵衛殿
 此度此書附二枚相認一枚今宮内陣之相納一枚
 大谷氏之相後一置中依
 市神口社元禄十五年正月再與町中出錢
 以之依
 又一通

押原推移録下ノ卷
 十七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





先例之通御棟上之市差上係品
 一 だくろ紙 九枚
 一 真田帯 三筋
 一 毛 板 三ツ
 一 拂 三通り
 一 加うかい 三本
 一 針 三通り
 一 鍔 三ツ
 合七色 三ツ

外之神酒大谷氏分差上り市ト事
 有之通初市名運上差出し申い為後年如斯
 以上

片浦分
 舟越分
 舟二

西原沼藤三郎件
 利 八印
 久左衛門印
 久兵衛印
 宇兵衛印
 真四郎印
 長兵衛印

角田次郎兵衛分
 板屋大郎兵衛分
 新町左衛門分
 押原推移録下ノ卷

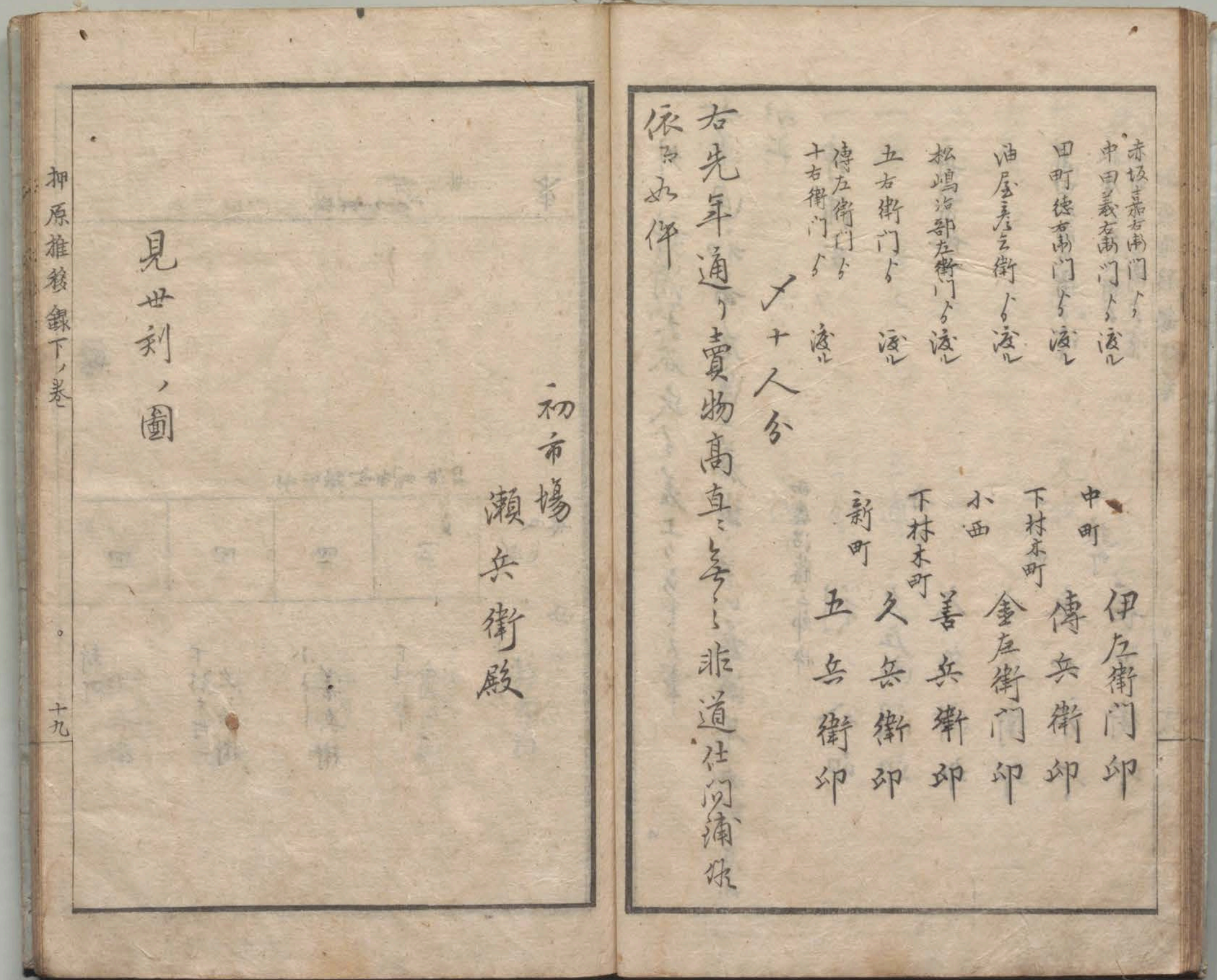
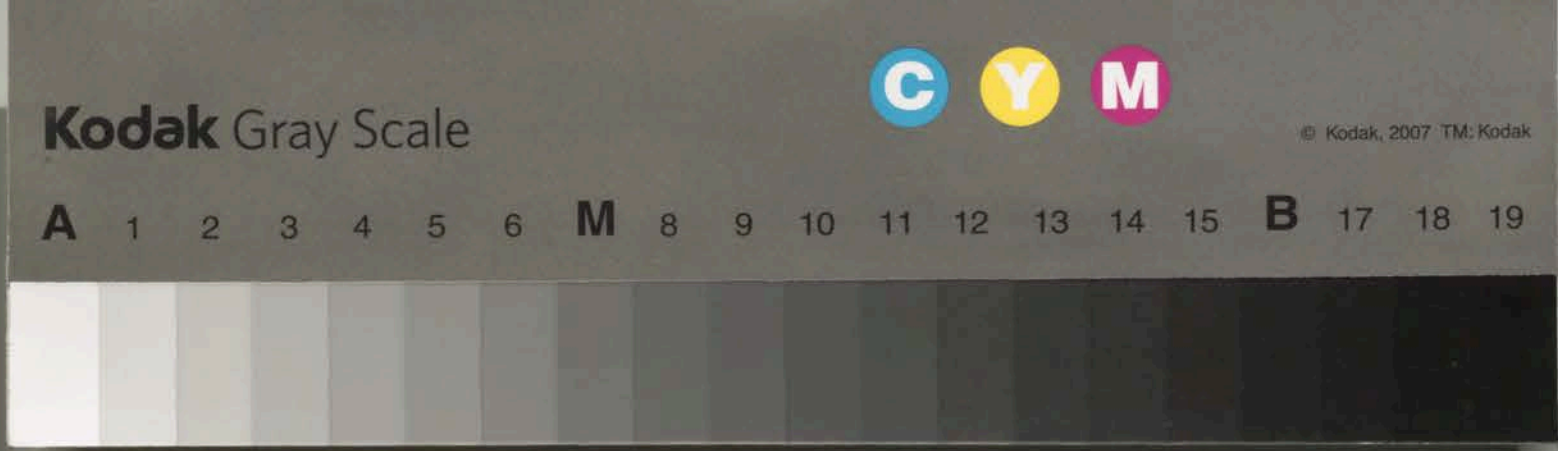
上様町
 下様町

十八

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録下ノ巻

見世刻ノ圖

初市場
瀬兵衛殿

十九

赤坂嘉右衛門ノ
 中田義右衛門ノ
 田町徳右衛門ノ
 油屋彦右衛門ノ
 松嶋治部左衛門ノ
 五右衛門ノ
 傳左衛門ノ
 十右衛門ノ

ノ十人分

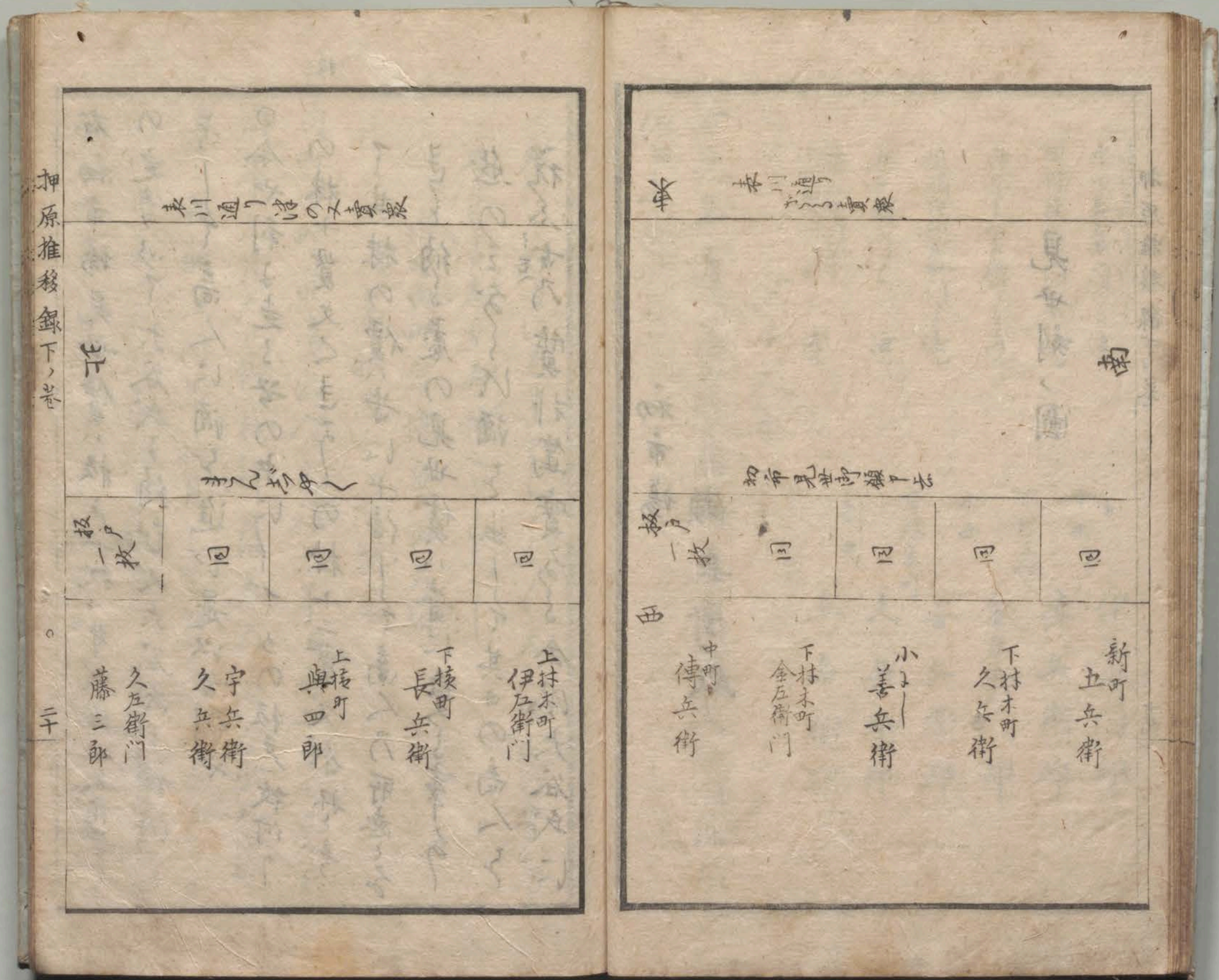
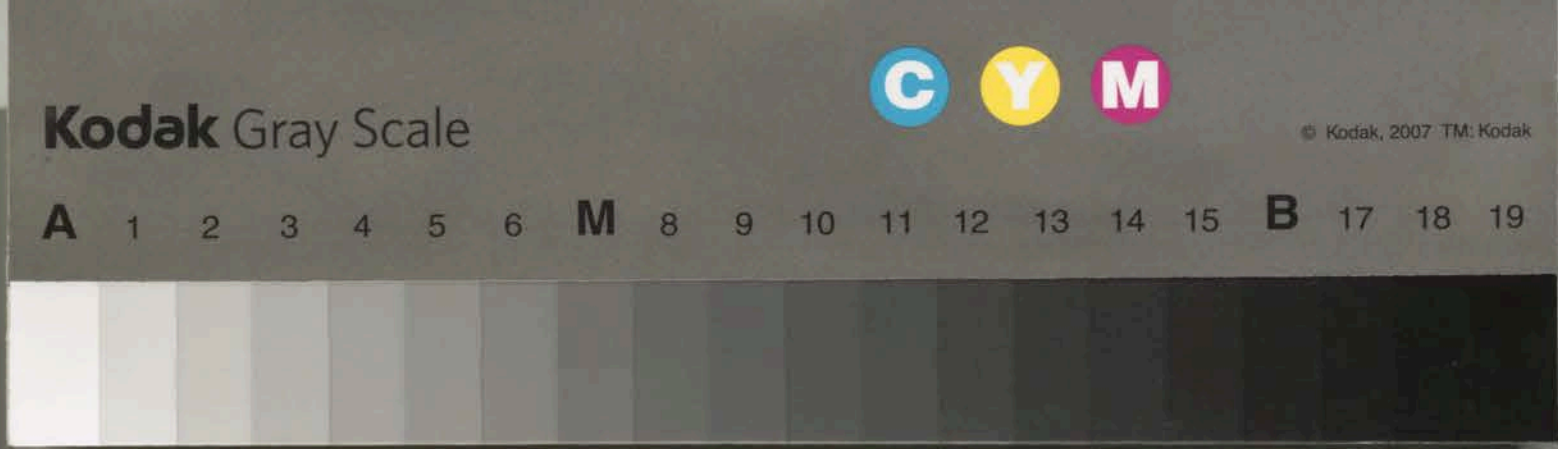
右先年通り賣物高直ニ多ク非道仕向浦依
 依如件

中町
 下林木町
 小西
 伊左衛門印
 傳兵衛印
 善兵衛印
 金左衛門印
 下林木町
 久兵衛印
 新町
 五兵衛印

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

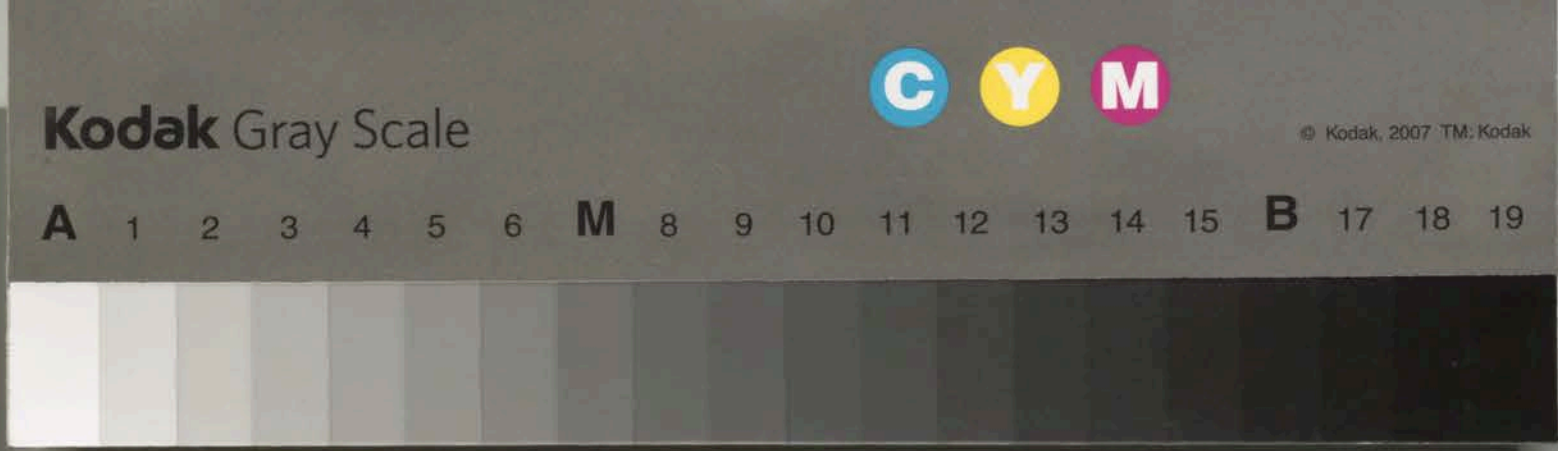




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





辨

右初市場見世賃ハ板戸一枚、身六拾四文宛昔年の定より少く大谷氏に納む又大谷氏分神酒と号し、高人に酒を進む是以古例也
 ○今や利子走る号の中、いりてうの板戸枚何うの株十貫文くまうの株十二貫文余杯と号す其株の價ハ昔に十倍し、高人乃所慮とるまじと納る處の見世賃ハ昔に變る事あり然のこを以酒を出し、其日の高人を税ふ古乃質朴篤實ある余風大谷氏に

残りを知るに是まうとす、く又大谷氏の昔を身まう志も奇特ととる

内町田市場争論大槩
 并 商物品分々規定

内町田市場出入元禄六年癸酉二月子菱
 同年九月六日御裁許落着乃處右出入田町
 へを再願出同年極月へを數度御吟味あり
 同八年亥七月御裁許赴内町田市場商物品
 分々定より田町を以て親坐とて取替せ規定

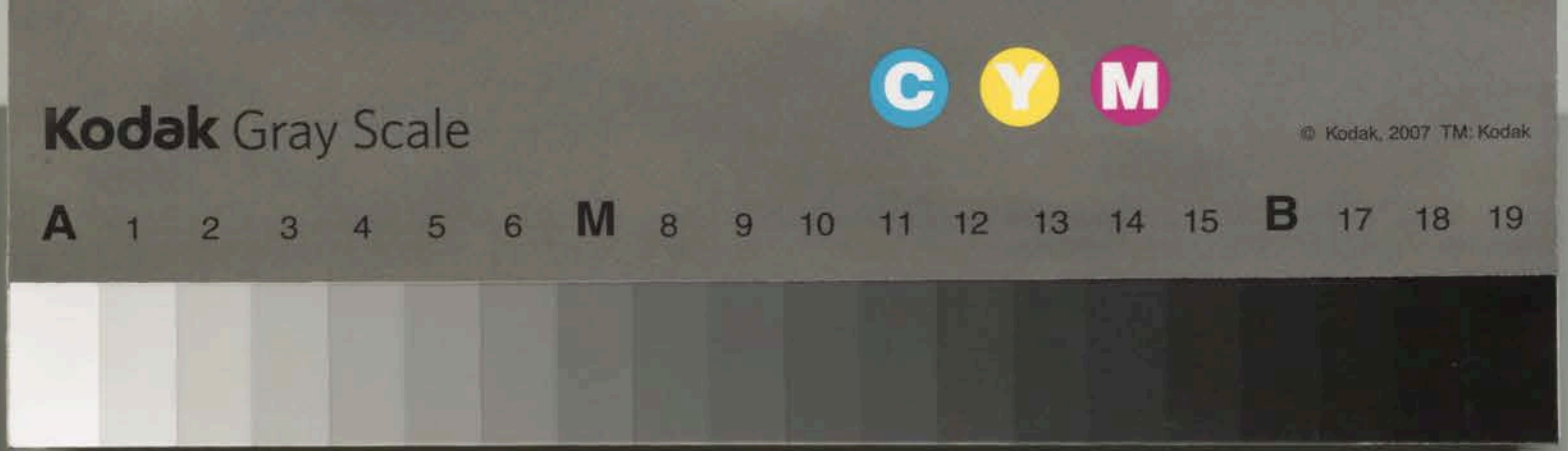
押原推後録下ノ巻

廿二

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





高物品分々庄々通り
 田町よりハ 木綿 古手 紙 茶
 藍物 木地之類 福ぎ
 小ん之 緑綿 けしき
 鍛冶炭 鍛 鏝 串掃
 内町よりハ 麻 小間物 塩
 布 竹木 板
 堅炭 煙汁 真綿

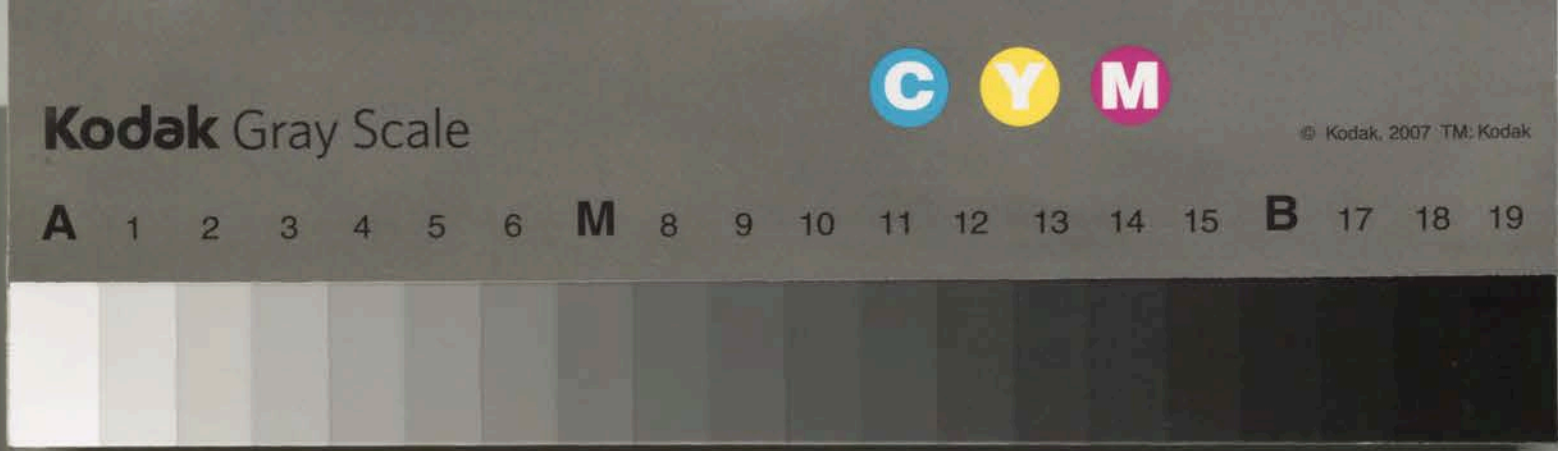
其外之雜物ハ田町内町より高賣可仕昔御裁許
 之上取替セ證文あり
 其後子細あり之享保十五年庚戌但し元禄年市代官
 後藤庄左衛門様所支配之市再市場出入争論
 に及ふ之後延享三年丙寅享保十五年市代官山田
 八兵衛様所支配之市又々市場争論訴松有之
 寛延二年己巳迄年數四年目より御裁許迄
 按に元禄六年御裁許證文の中子云
 田町内町より係市日々市場より賣物品分々之賣

押原推移録下巻
 廿三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





来り係先年兩町評論之節證文取替せ依
 以後内町之穀屋一切云々下畧
 又延享三年市場争論再出入之相成りい中内
 町之返答書の中云
 内町田町市日市場之係先年也及出入相成
 元禄六箇年評定所於此評定味之上
 評裁許之仰付双方評證文以下置同八年
 亦年及出入之相成再往評定味之上云市日市場
 之係賣物品分被仰付取替證文双方以下
 置係處云々下畧
 ○是を以て之の時元禄年中以前之度
 市場出入評論ありしと云々下
 今以て品分々角田町之高賣ありし
 を内町之液世を以て者乃完之年極月小
 至内町之見世賃と号し之市
 間一軒身百文或ハ廿百文位宛取立之
 是内町之高小間舗品を液世を以て
 田町市場之出た之の事一書を勝子以下

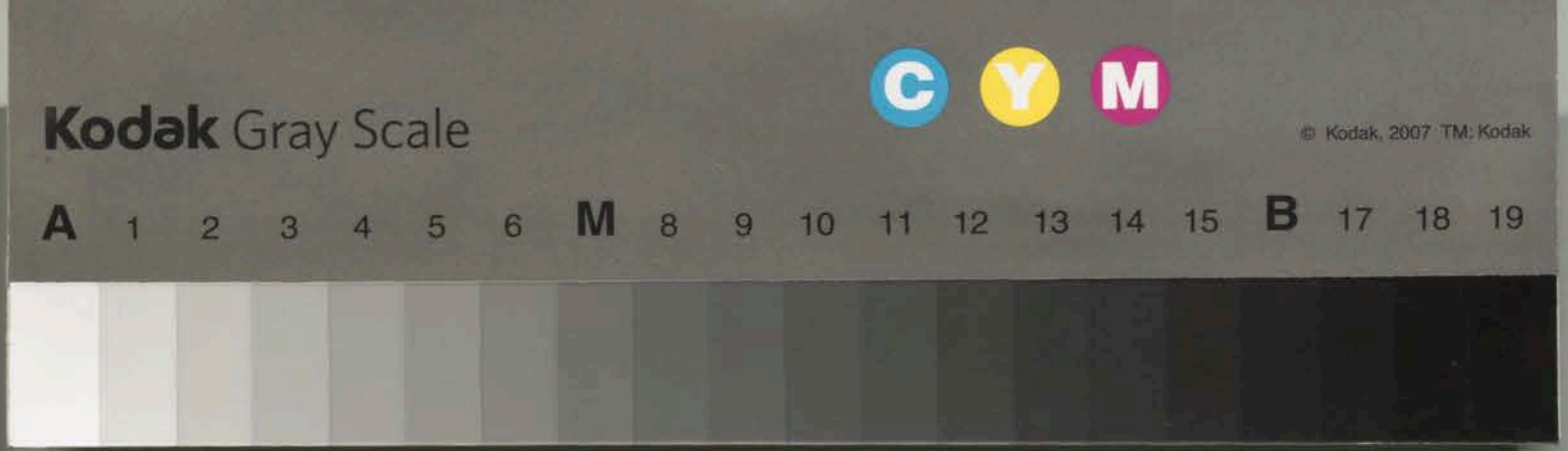
押原推移録下ノ卷

廿三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





場に見世を出入し賣買をなす近郷乃
 農家より諸人多く市日に出る物を賣
 買せき身の金く用を辨す事能は故に
 市場の定めもありて高物品分々此規定杯
 ありありあり古風乃今に残すは市毎に
 宇都宮より古着商人来りて田町に見世を
 出入り又同所傳馬町井桁全利右衛門是も必来り
 見え世を出れば則古一の余風之
 再按に及り市場争論あり一振元ハ一神

押原推移録下ノ卷

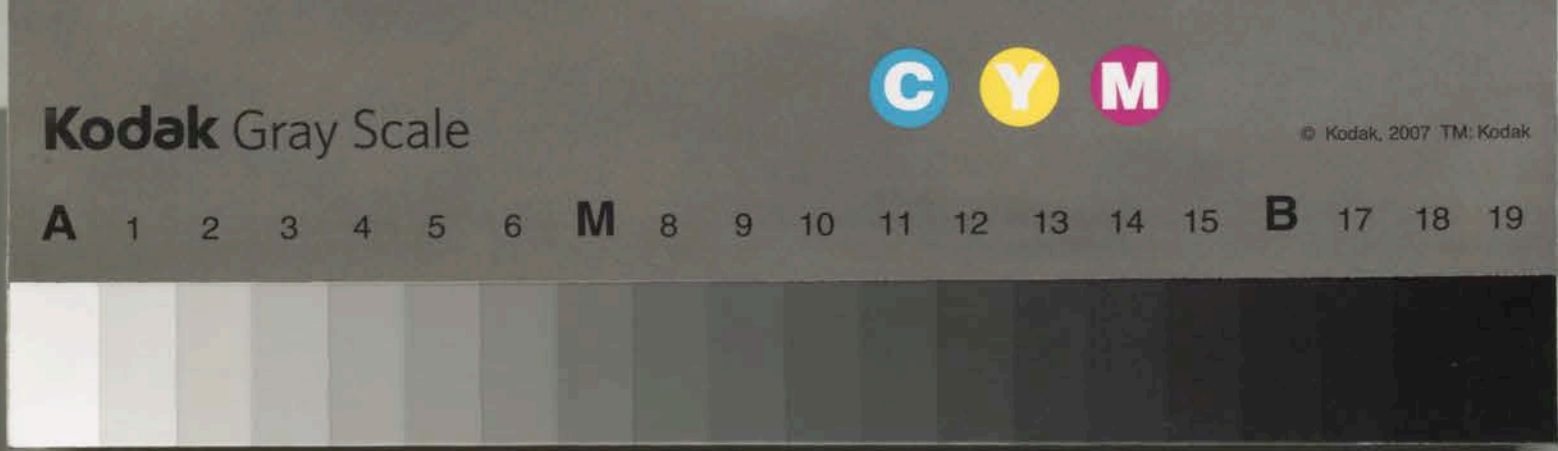
廿四

居宅より賣買を以て由急ありし由急に見
 世賃ハ田所の取替とする衣の之事乃記を認
 ざる輩ハつが宿より高を乞ふに見世賃を田
 所に出はると何事哉杯といふ人あるハ利あり
 に似し事と昔乃事を知らざるも也之
 按に七八十年前延享寶曆乃以迄ハ鹿沼
 の所多くハ農家の之より今のかくハ商家
 軒を並くある事あり故に市の昔日ハ
 朽木宇都宮を初め諸方乃商人入込り市

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





元禄年中内裁許して穀坐八田町に定り
 其外の賣物ハ一月廿六日の市場内町田町
 に三度宛立て田町市場の節ハ内町より
 品物田町へ出し高し又内町市場の日ハ
 田町内町へ出し手に市場を出て賣買ヤ
 ありし然るに内町ハ諸方順後もよく又
 農家の中ある商人も田町ハ多あり
 し内町市場の節ハ他所より出る商
 人も田町市場乃日よるハ多く内町の市場

の之般乗昌して田町ハ市間の見世商共ハ内町
 及ハ田町ハ市場の名のこふして市ハ自然
 と内町よとよきしやハに成りありしを
 一しきも由名ノヤ元禄年中より寛延二
 年にしりて五十余年乃間ハ四ヶ夏の多倫
 皆田町ハ願出るのこよて内町ハ返答のあり
 西光寺太鼓
 田町上光明山攝取院西光寺ハ江州蓮花寺末
 時宗也寺什の太鼓丈廿六尺計り律り四尺程

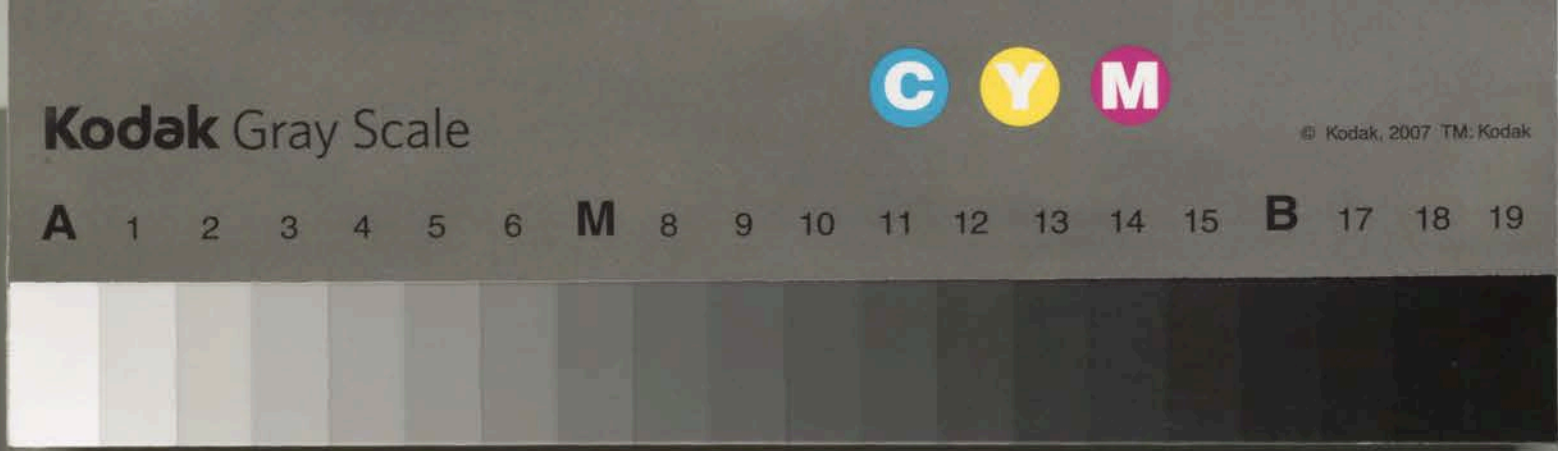
押原推移録下ノ巻

廿五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3



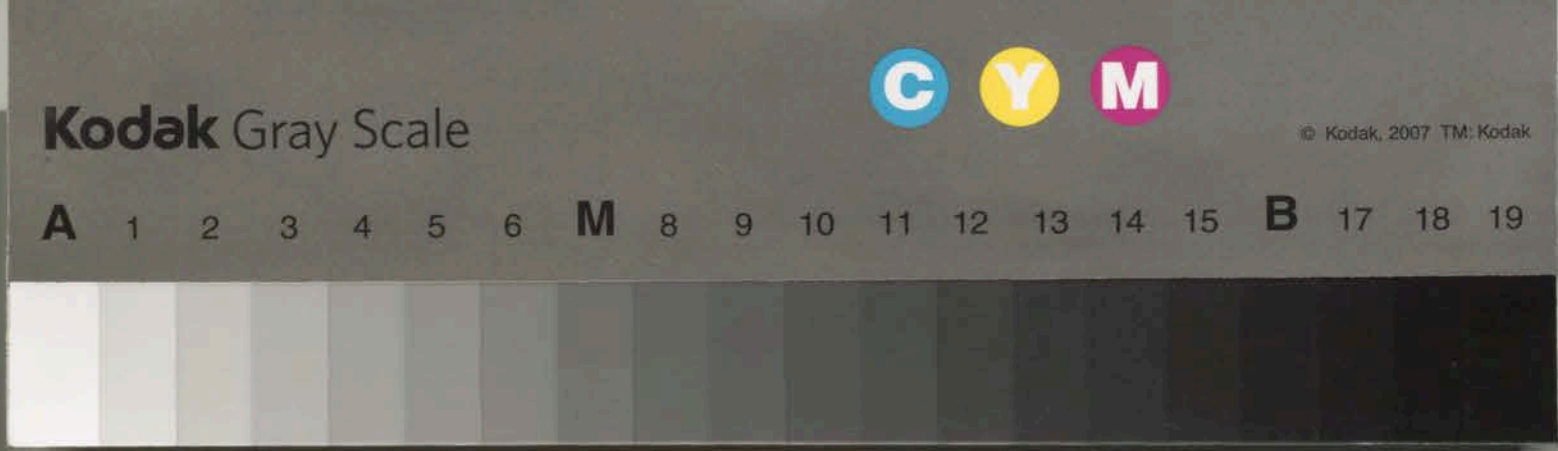


革破きも胴の裏面の文を寫し此大鼓に免稅之石附といふ
 此鼓や天正元年乙酉歲作成也
 属當寺以延寶中值祝融故廢捨六十余年
 至茲年當寺十八世直○再修張之也
○ハ鑲の四ノモノトテ文字隱キト云也
 延享二乙丑年四月吉日
 按に壬生家在城の節時の太鼓を打ちりし
 役ハ必西光寺に勤めしありし其故ハ今也
 宇都宮市城々御門の太鼓打坊主二人
 應永寺より勤めり十二人扶持下さりし也
さきハ壬生家落土の節よりし西光寺乃
 什物トハなまらるるありし
 鹿沼麻 同晒
 此近郷都て麻苧を産し栗野大戸を以て
 頭とて諸國に賣販し鹿沼に買占て諸國に
 出之故に此地の産物と云
 當文政九年丙戌九十二角表具全儀を衛詰云
 百年許り以前貞家毎に晒を製して諸國に
 押原推移録下ノ卷
 廿六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





賣敗せしむといふとあり其業をあるに之の能く
 今、真岡の産物とをせしむ但、奥羽の際にて
 鹿沼晒と稱するもの商家に看板の掛きたるを
 三四十年前よりいふ可今、ぬれ河、河、ん、知、は、こ
 千、あ、ち、十、あ、ち、地、名、考、
 按に往古日光三社に宮仕と稱する者十人あり
今、公、義、の、類、累祖鹿沼に住は其魁カシラたるもの
 両家あり右大将頼朝宿敵乃昔ありて日本
 六十六ヶ國小准して六十六郷と神領を寄附せ
 り、或年の正月、乃宮仕二人鎌倉に赴き鏡の
 餅を獻せし折、具是開の日ありし、
 右幕下大に悦喜して千、あ、ち、十、あ、ち、といふ
 名を二人に給はり且鹿沼に於て采地を給ふ
 今に十、あ、ち、と稱する地名田の字に残るを又
 千、あ、ち、屋、舗、といふ、下田町東側松、右、衛、門、住、居屋舗地
 是や今、屋舗年、真、木、日、光、千、あ、ち、の、家、に、收、む
 千、あ、ち、の、家、日、光、大、工、町、に、居、し、て、三、社、大、權、現
 祭禮乃、節、ハ、金、の、三、鳥、帽子、を、着、し、ビ、ン、サ、ウ、を

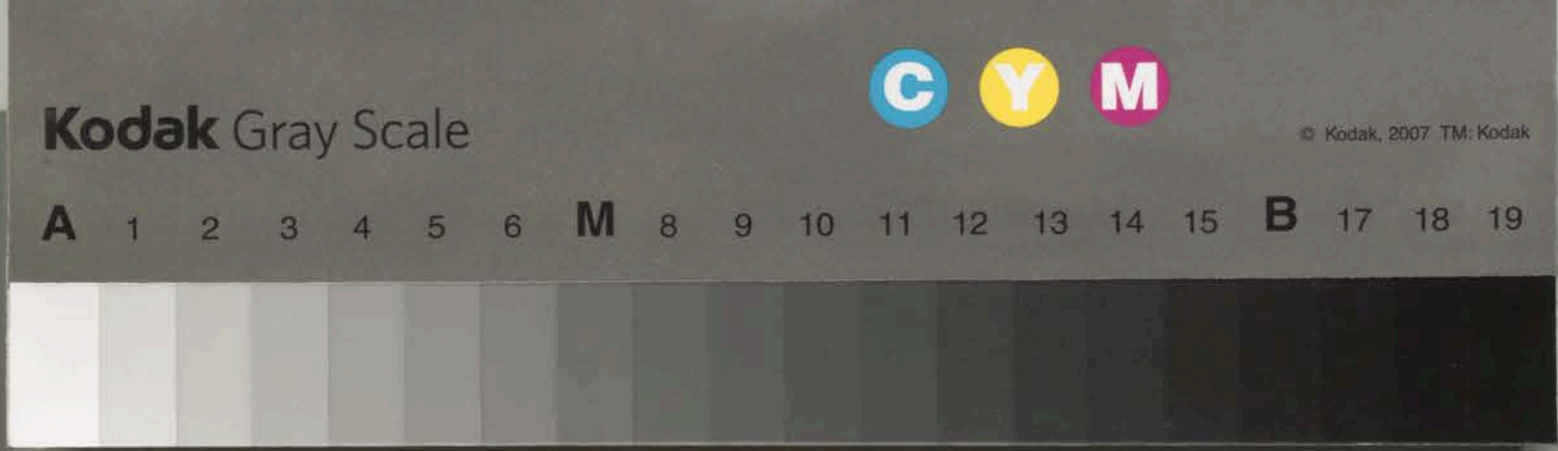
押原推移録下ノ卷

廿七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





打はやくて 神輿に供奉は

按に諸家大系圖云征夷大將軍頼朝

嫡男 幼名 十萬君 後二代將軍頼朝 禁色征夷左中將 左二門督

次男 幼名 千萬君 後二代將軍實朝 征夷大將軍左二門左大將右大臣 正二位号鎌倉右大臣

千萬才十萬才の名幼君二方の名に合せし由急
あき事や移退考ふし

按に毎年六月十一日日光山中禪寺湖水を渡
りて行者濱禪頂といふ事をなす小鹿沼乃
行人の乗る舟を鹿沼舟と唱ふ 宇都宮舟日光舟 其外皆舟の發
の赤と發不 其鹿沼舟の出帆せし由他の舟出する事
を許さば往古より例なり是を鹿沼一番船と
いふ思ふに頼朝六十六卿を寄附せしに
鹿沼を以て魁と以故此事ある歟又壬生家
若沼に居して日光惣政所の職を掌りし事
あるに其以て然定めしもの歟

日光一番禪頂の説

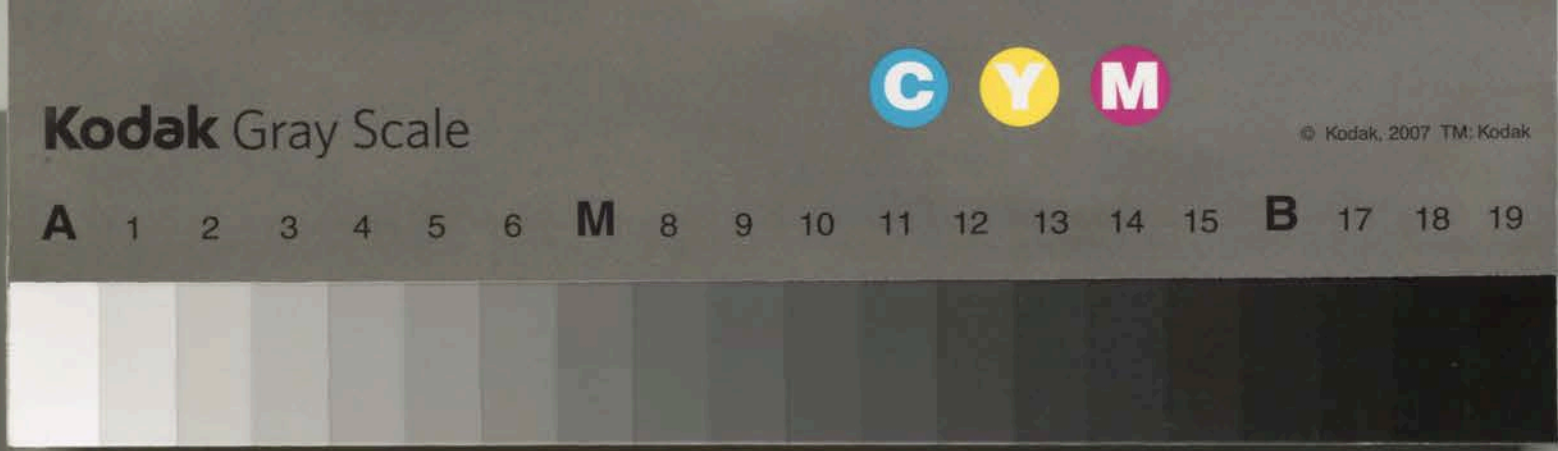
押原推移録下ノ卷

廿六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





淨

古老の語云は古日光山一番禪頂鹿沼に先達の修驗ありて今宮別所不動尊乃前そ護摩を焚行を修し古峯ヶ原に登るに今の光太寺の前ある川の流ききて垢離をとり身を淨め故に今より此子掛る格と露取格と然し古峯ヶ原に登りて外法ありて夫れを日光子登山せしとあり則久保町東側子修驗者全舗の名あり今予の弟子四郎住持何事の以り歟一番禪頂瘻し鹿沼より行者登山せし故に二書禪頂しを連て登山

及

せしが近頃四五十年新々に日光より一番禪頂乃修驗者ありて禪頂をあらはれ我々○今宮廻廊御門の左右に菅菴とあり巖ありて此を笠掛巖といふ往古日光冬嶺の行者登山の節爰に笠をかろし置て今宮の神に詣りて巖をくるとあり

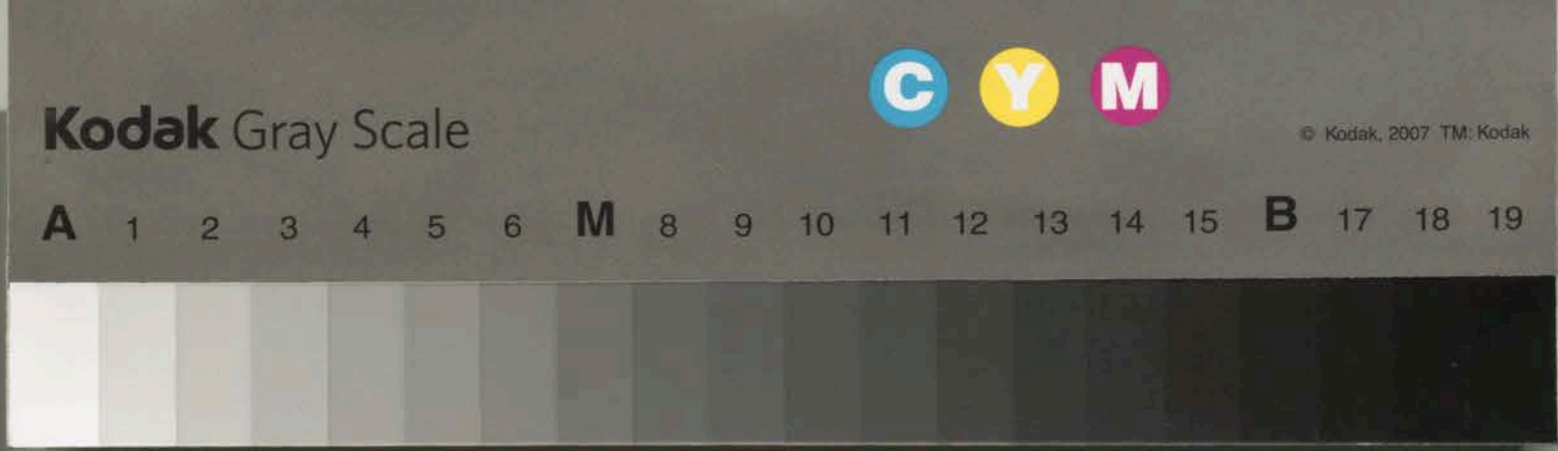
按に是も一番船同考より日光惣政所あり壬生家の居せし鹿沼ありて一時の勢鹿沼を以て一番船一書禪頂杯と物く日光山

押原推移録下ノ巻
廿九

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3



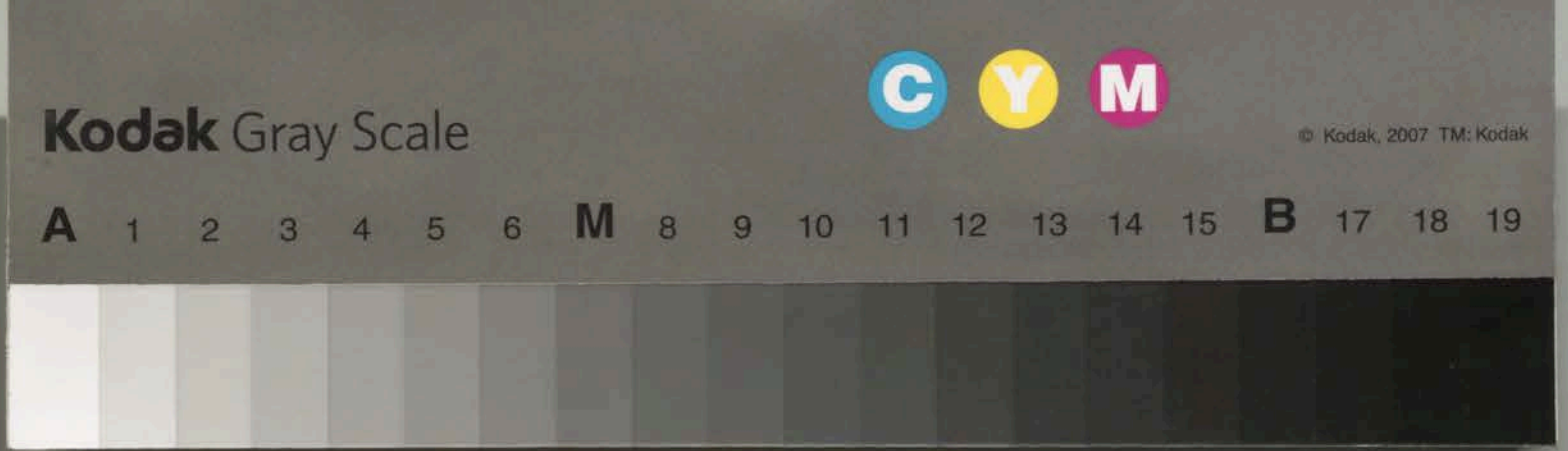


の事子付ても甚ほを以て魁とせりある下
 愛宕山由来
 古老の語云今元岡村地當所系上寺
文配愛宕山に祭る
 愛宕山大権現御本躰一寸八分一丁
 東照神君の守本尊也元和三年丁巳
 神君の御遺骸日光山に移し奉る時
 神輿三日藥王寺に御逗留也此時大僧正天海
 住僧俊賀法印に下し給はりしを今の愛宕山
 下祭り奉りしとあり則江戸迄愛宕山圓徳寺
 末も也藥王寺門徒子別當ありて圓徳院と号し
 八畝歩程乃除地あり是之と持し今も藥王寺を
 兼領し唯圓徳院の名のみ残りし
 俗説より愛宕大権現は壬生義雄の守本尊あり
 一を藥王寺に納り然るを今の愛宕山に祭ると云
 誤り之義雄の守本尊は聖觀世音御長七寸あり
 今現小西鹿沼村雄山寺に安置
 不二庵ノ地名考
 玉田村塚原松系寺前の田子字を不二庵前と

押原推移録下ノ卷

三





いふ所あり慶安二年御改水帳よりあり
 愚按り明和四年丁亥正月廿日西見野村長光
 寺境内より地中より堀出に古鏡并塔ノ圖
 外に古錢廿六品宗代九百七拾六文。○萬里小路
 藤房卿世を道進給ひて不二行者授翁と号
 し整く此所より忍ひおせしと日陰草
 といふ所あり
 抑中納言藤房卿は後醍醐天皇より侍り
 忠良の賢相たり天皇相摸入道宗鑑を
 正して再び天下を公家の代となり給ひ
 しと心獻智拙くましくして准后の色小
 満させ給ひて政正より下は藤房卿さまを
 歎き了志はく龍顏を犯しと諫め奉ると
 空しくも奸臣のつらきありと忠言用ひて
 楠正成を招き給ひて後東の事共を討て
 誤し歎き給ひてつらき遂に官を辭し職を
 捨て身と山野に隠し多しつらき遂に其

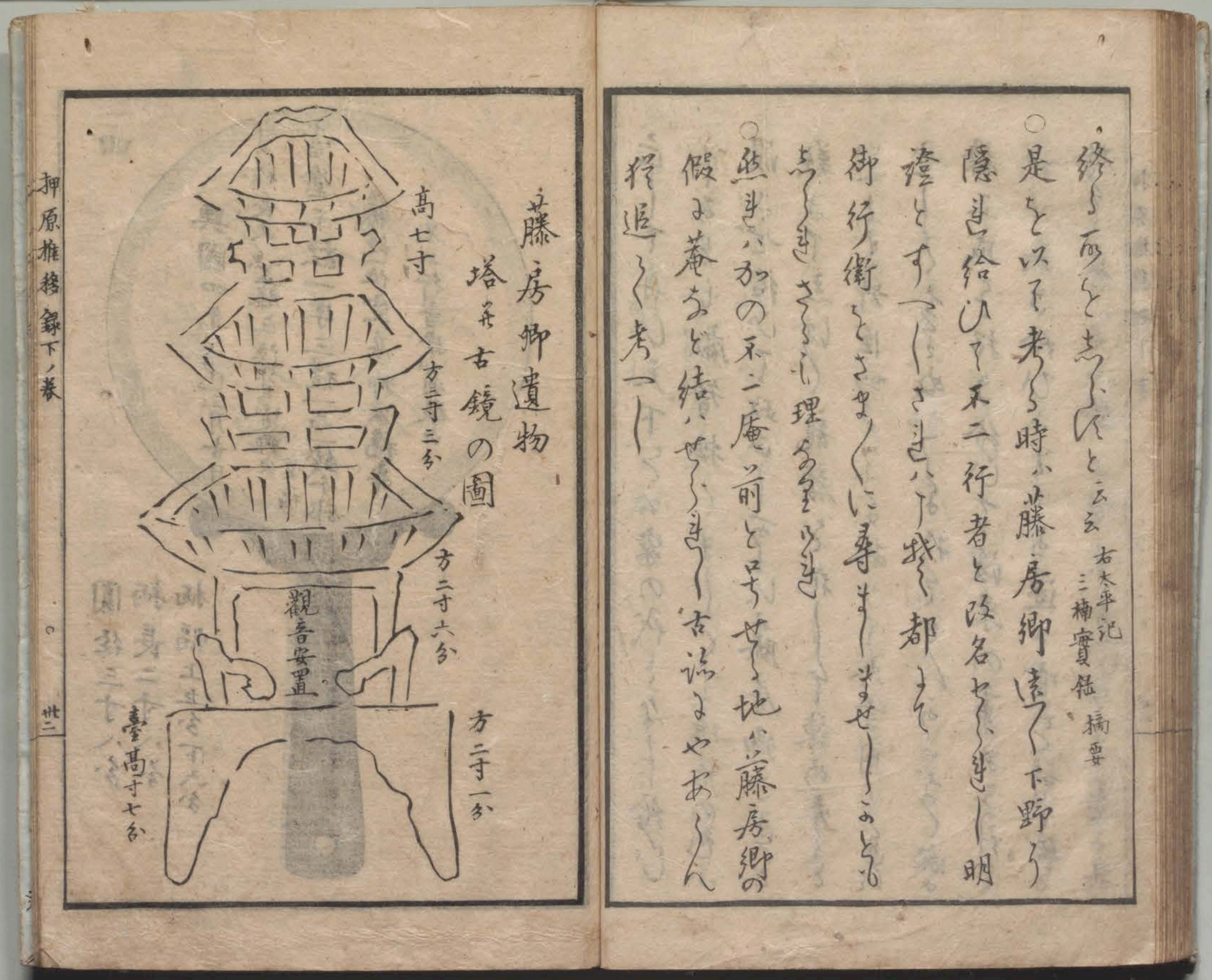
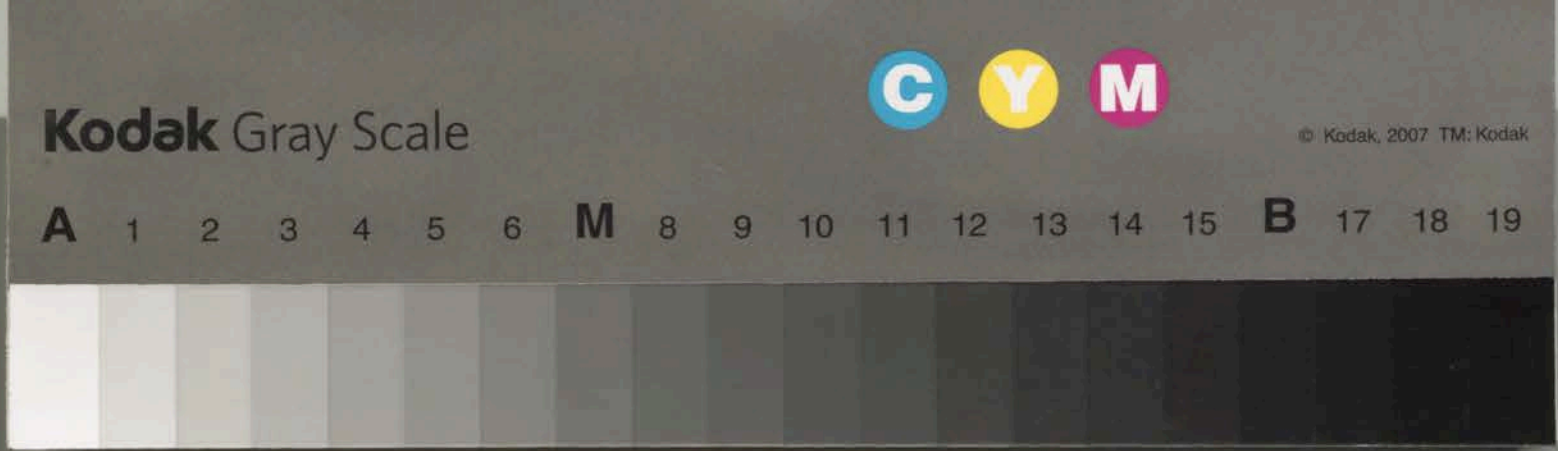
押原推移録下巻

世一

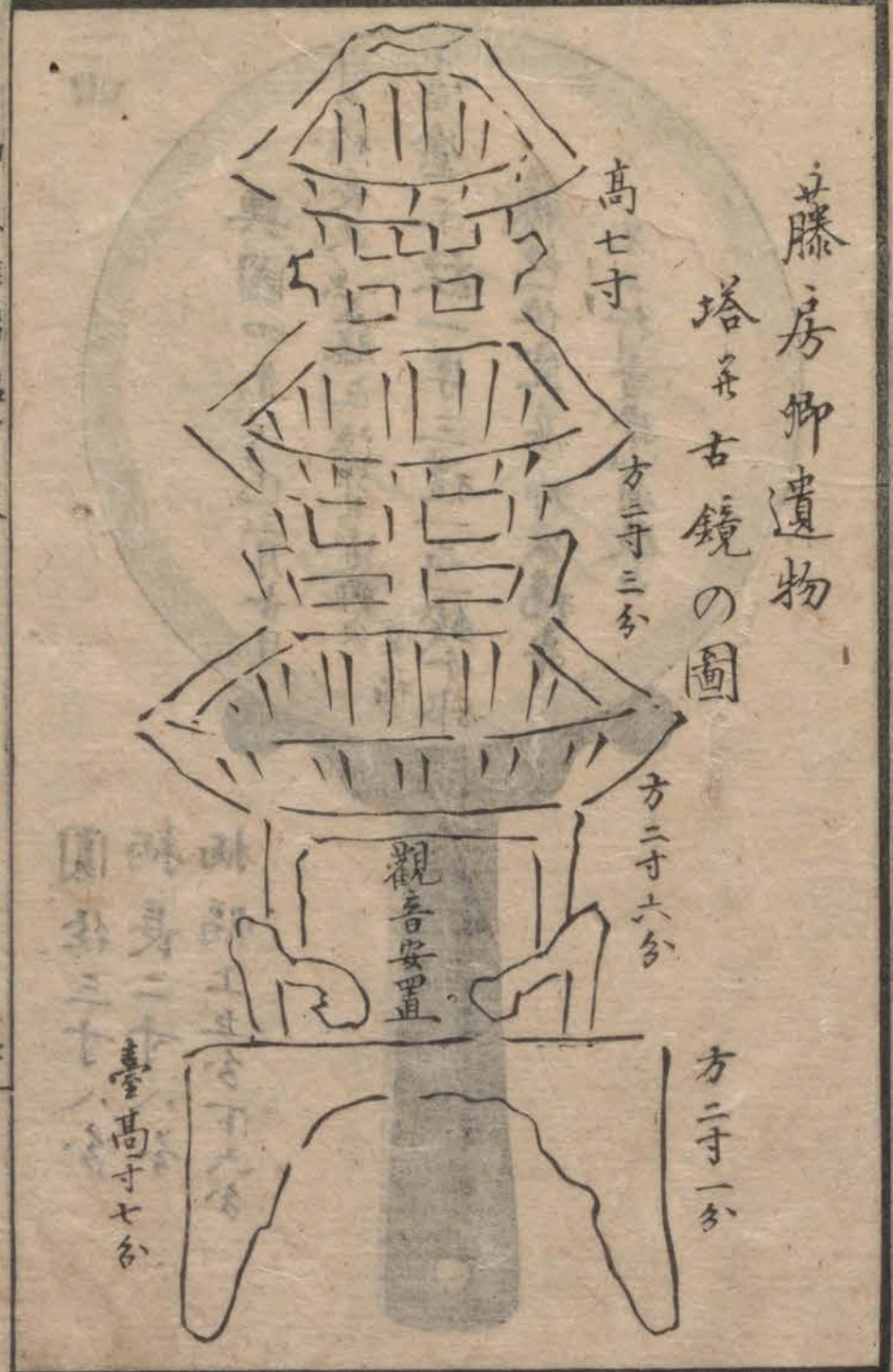
142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原権移録下ノ巻



藤房御遺物

塔并古鏡の圖

高七寸

方三寸三分

方二寸六分

方二寸一分

観音安置

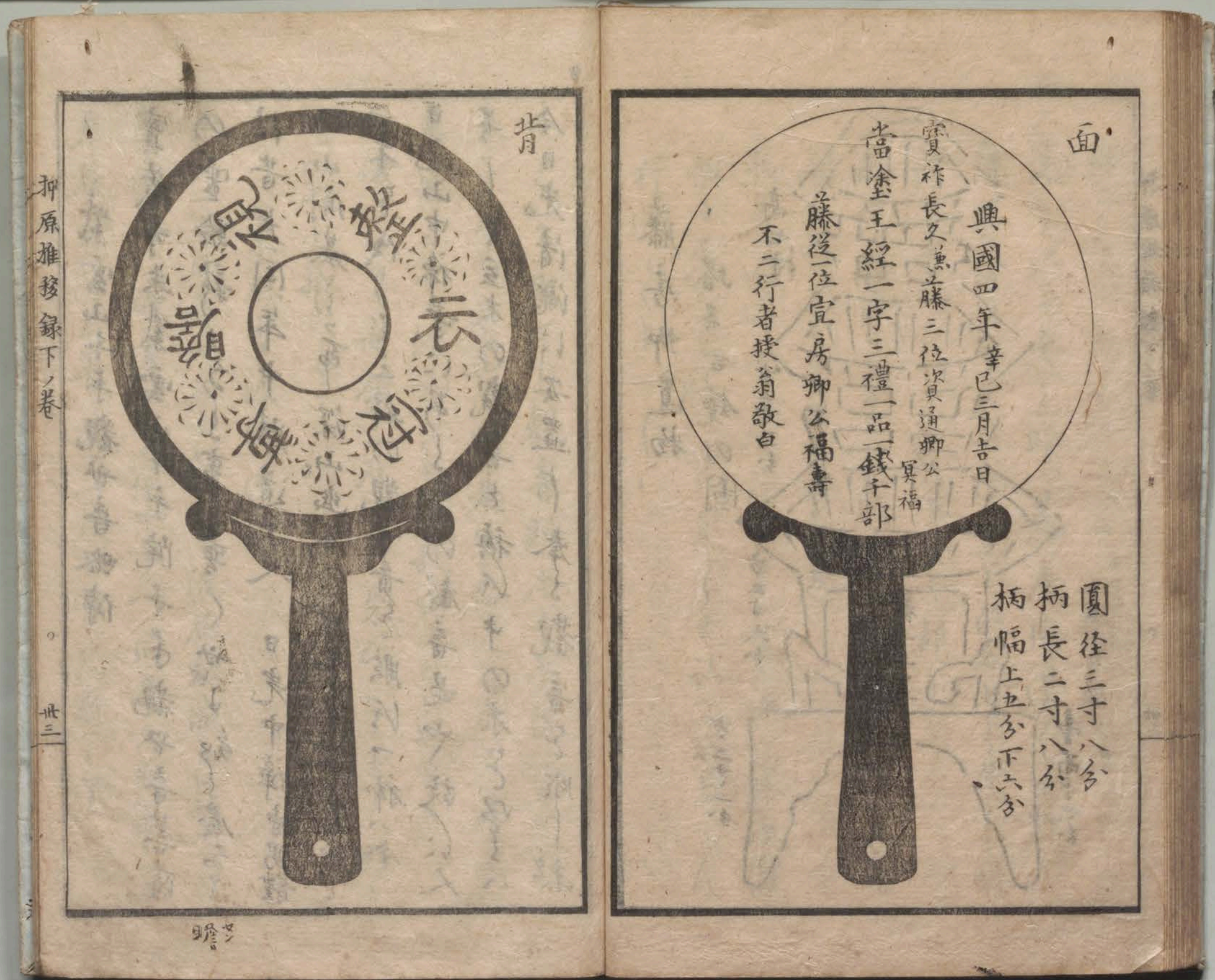
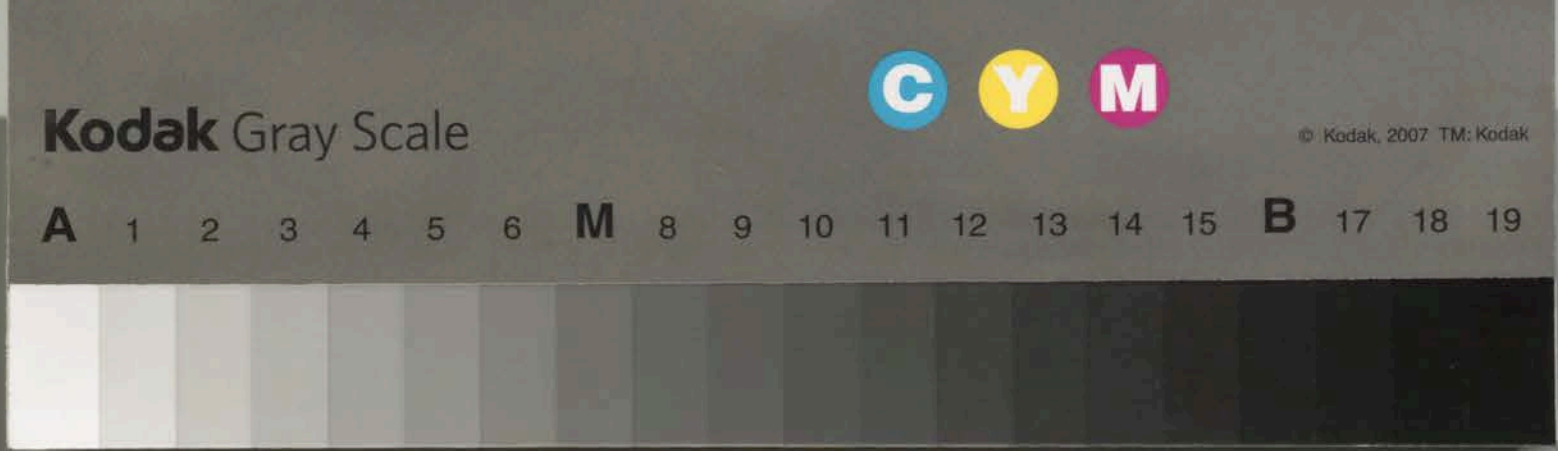
臺高七寸七分

終る所を志すべしと云云 右太平記 三楠實任 摘要
○是を以て考ふる時ハ藤房御遠く下野ノ
隱岐給ひて不二行者と改名せり其ノ明
瘡とす一ノさまハノ我ノ都を
御行衛とさまくに尋すも其ノ
とてさきさきも理ありとす
○然レハかの不二庵前と号せり地ハ藤房郷の
假子菴と結ばせり其ノ古語也おらん
程追々考へ

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原雄移録下ノ巻

背

面

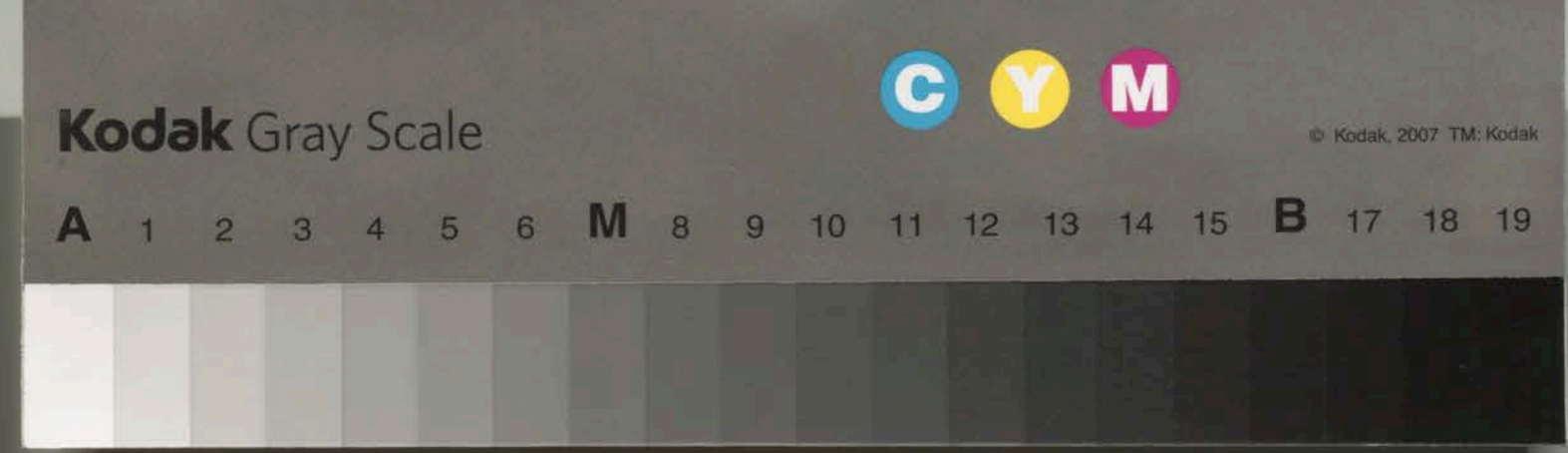
興國四年辛巳三月吉日
寶祚長久兼之藤三位實通卿公
當塗王經一字三禮一品一錢子部
藤從一位宜房卿公福壽
不二行者授翁敬白

圓徑三寸八分
柄長二寸八分
柄幅上五分下六分

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





紫雲山千手觀世音略傳
 寶藏寺末紫雲山千手院千手觀世音菩薩
 の靈驗新々あり事ハ善く世に知らる處あり
 往昔大同年中勝道上人日光中禪寺男體
 の山開基より深山幽谷の中より異木を撰
 一木を伐りて之禪の觀世音を彫り一禪ハ今
 日光山中禪寺にある處の觀音是也故に人
 号し之を三木の觀音と稱す中の木を以てハ
 今日光清瀧に安置し奉る觀音を彫り末

末を以て彫り觀音則今千手院に安置し
 奉る之の是也則是を俗に三木三禪乃
 尊像と号し其の緣故何れを以て
 公儀より寺領三石の御朱印を下し賜
 心の之と号す

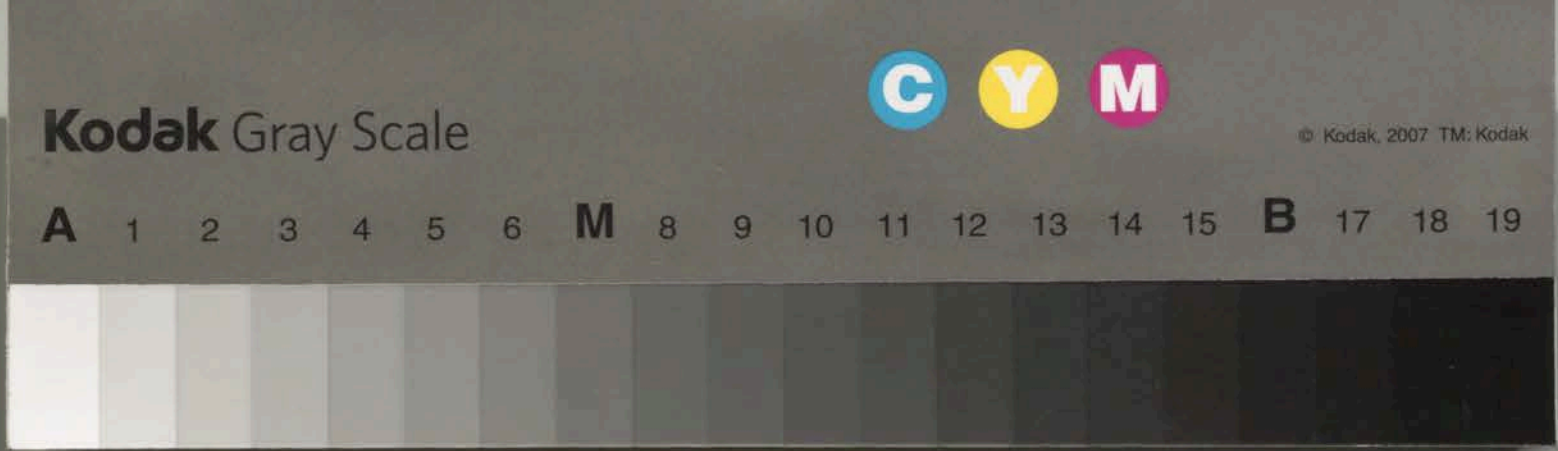
東照宮渡御の記
 元和二丙辰年四月十七日 源右駿城に於て
 御他界の御遺言に依て中づつ同國久野山に
 奉葬し同三年丁巳三月十五日久野に遷す

押原推移録下ノ卷
 卅四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





御尊殿を日光山より移し奉る將軍
 秀忠公の御名代より後四位少將玉井大炊頭
 源利勝松平右衛門太左源正久後改板倉内膳正
 源重昌秋元但馬守藤原恭朝其外御家人
 の英士雜色等に至りて奇羅を考へて
 供奉し奉る大僧正天海御導師とて
 金輿に御先達次より山門の碩學東関の僧徒を
 供奉し奉る御旅館よりあるところ新
 造りいとはまき御道竹助江尻より

清見を通りて給ふ今日の御泊り富士山乃
 麓善徳寺より十六日より原より山を過
 り三嶋より着せ給ふ又の日は此所に御道
 ありて明進八箱根をとり登り小田原より
 越ふ十九日も此所より山を越し大磯を
 過させ給ひ中原乃御殿より着せ給ふ廿日府
 中の御殿に着せ給ひ明日も此所に御
 逗留廿二日ハ仙波大臺より入御し奉り此
 等に廿六日迄御逗留廿七日ハ川越を御通

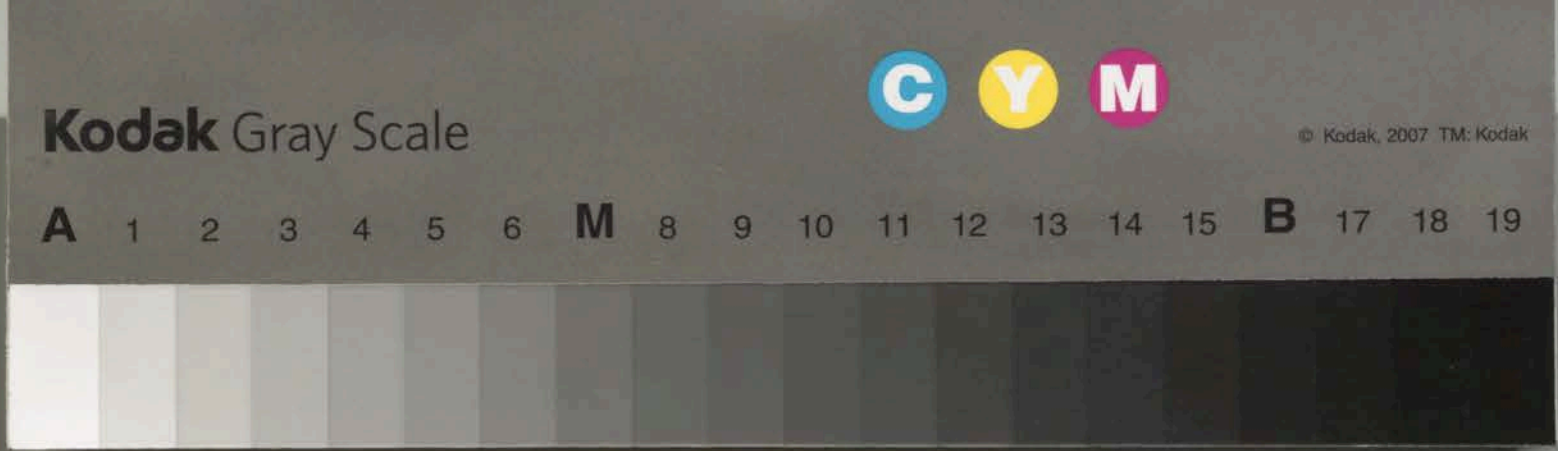
押原推教録下巻

卅五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3



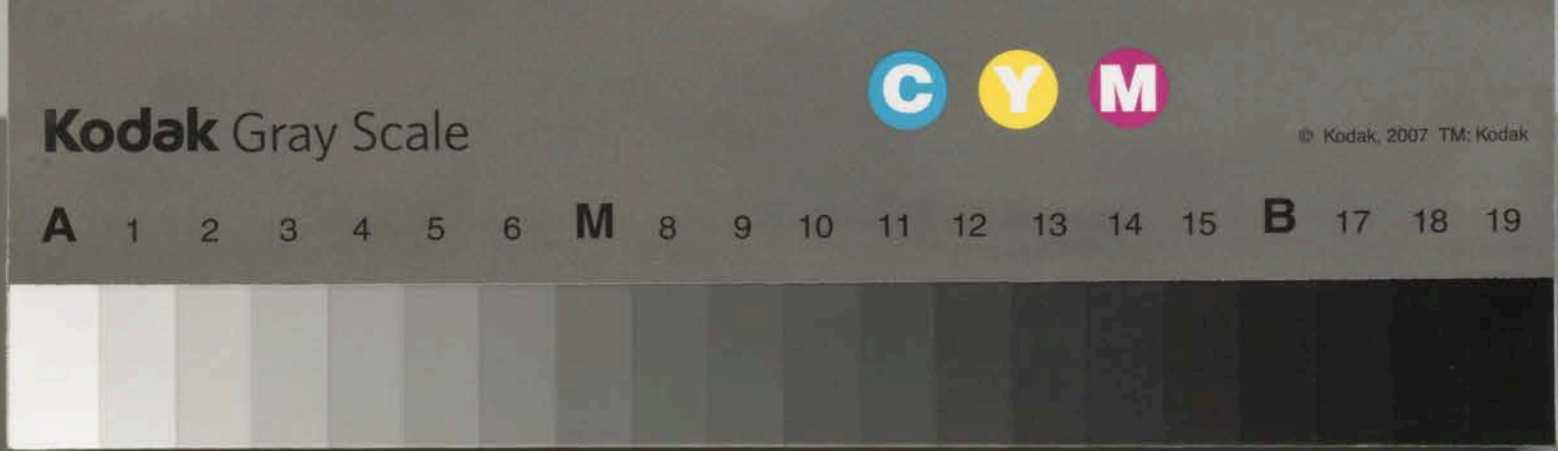


忍の城に着せ給ふ明る日ハ館林を御中
 やとまゝして佐野春日園といつる寺に入ら
 給ふ廿九日ハ岩舟山を左より右へ折本と
 いふ里を過り室のハ嶋を右より左へ鹿沼を
 薬王寺といつる寺に入らば給ふ此所中三日
 御逗留四月四日ハ日光山坐禅院に入御し
 奉り久野山より御道中の間 御旅籠に
 於て三時の勤行日よ急慢あり大僧正
 御導師 扈從の大眾勸し 御尊嚴鹿沼
 薬王寺に入御 將軍家より寺内の南に
 御假殿を營之三月廿九日より四月四日迄世尊
 御安坐あり此時天海大僧正
 神君の御尊體並僧正の自像共に彫刻ありて
 俊賀法印に給り 神君御束帯坐像
 御丈八寸僧正坐像御丈一尺より 住侶俊賀法
 印謹々頂戴し 御假殿の御跡に小社を建
 立して 神靈を勧請し奉り毎月十七日
 供物を獻備し天下安全の御祈禱急慢

押原推移録下巻

世六





多く今に於てふきを勤行に
 大猷院殿渡御の記
 慶安四年辛卯四月廿日 家光公御他界同
 月廿一日の黄昏より 御尊骸を營中より
 東嶽山の木坊に移し奉り同廿四日
 寶館より出御を奉り左近衛少将酒井
 讃岐守源忠勝朽木民部少輔源植綱牧野
 佐渡守源親成久世大和守藤原廣之中根壹岐守
 源正盛其外近習外様の英士數多供奉
 一品法親王尊敬毘沙門堂前大僧正公海
 寶館の御先子進之山門東嶽の大衆各々
 扈從して御旅館日に三時此勤行あり
 今日の御渡り糺壁最勝院廿五日八栗橋福壽
 院廿六日間に田龍昌寺廿七日唐沼薬王寺廿八日
 よ末の上刻日光山の木坊に 寶館を入御
 るに奉り同五月六日黄昏より及ひ
 御尊骸を大黒山の石室に葬り奉り同刻
 佛堂に於て御申陰の御法事御修行

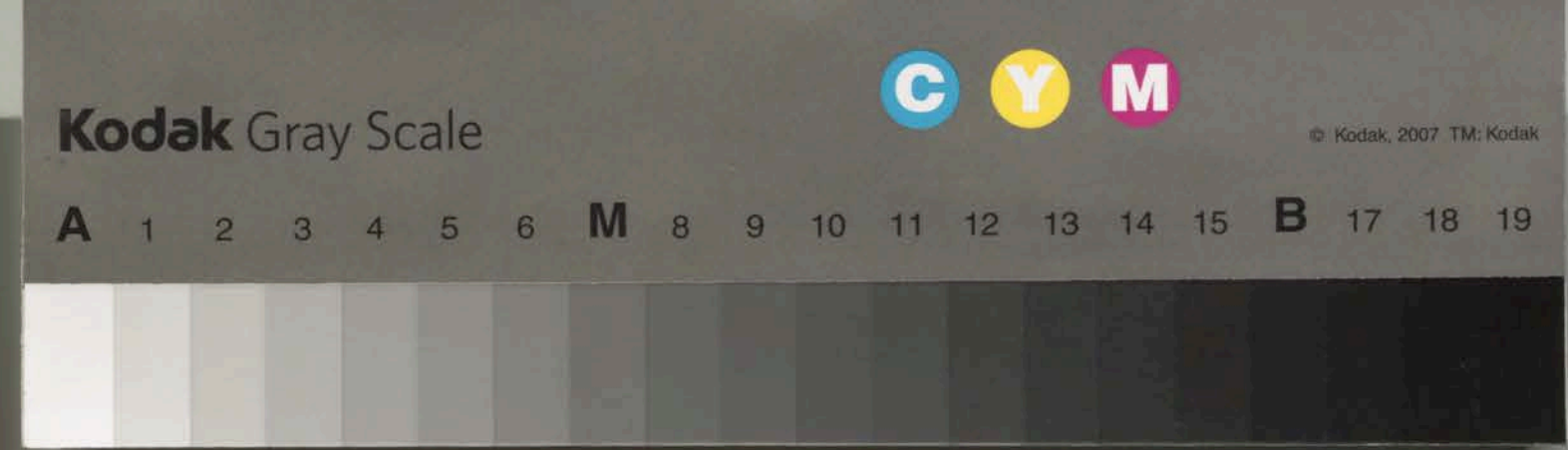
相原推移録下ノ卷

卅七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





抄同十七日贈正一位大政大臣大猷院殿と謚
 給ふ勅使西園寺前内大臣實晴公参向
 御中陰の間公卿門跡と使僧ととて詠
 奉納し給ふ 大納言家綱公御名代とて
 従四位下奥平義作守平忠昌 甲府 館林
 御兩殿の御代参とて牧野義濃守諫訪義康守
 御中陰 御法會の間日とて冬を拜禮あり
 三家並々天下の刺吏ふとて色宰とてとて
 使者ととて香奠獻上あり其外ハ宗の諸徒
 登山し詠經奉納あり于時度必薬王寺真海
 法印とて京上し詠經とて奉納せり
 慈眼大師傳記略
 寛永廿未年七月大僧正天海東叡山に於
 疾病あり 大樹とて官醫四人を命し
 看候せしむ 大樹とて孝い光眞を托す
 病を問給ふ 還御ありて後阿部豊後守忠
 秋子命しとて狩野探幽とて大僧正の像を
 圖寫せしむ同年十月二日午刻端坐合掌とて

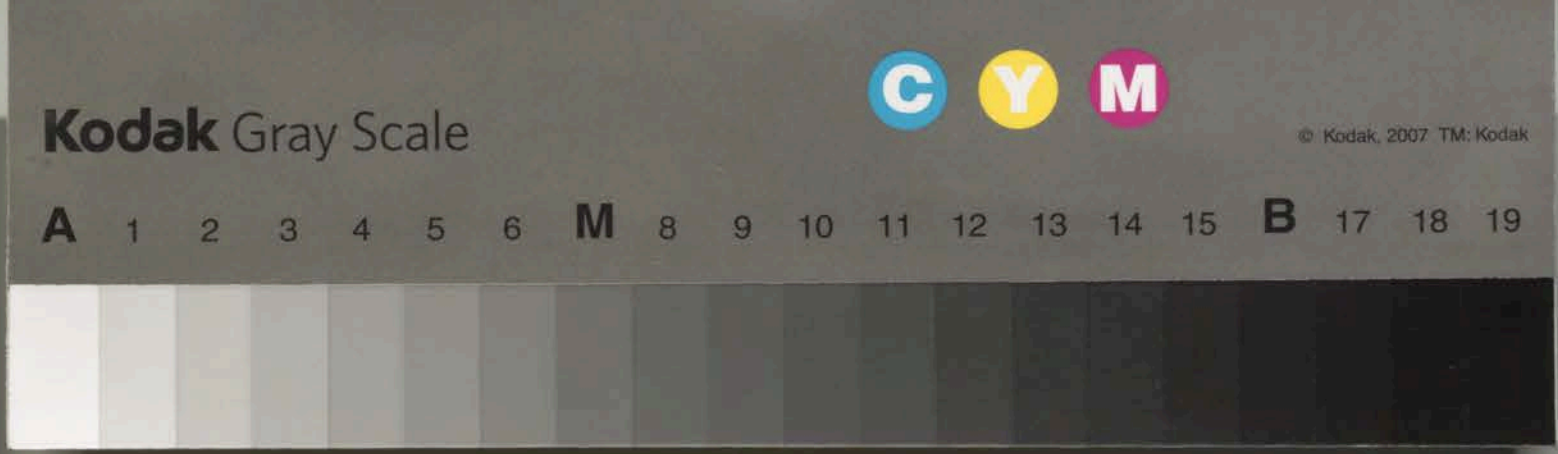
加原雅移録下ノ卷

世八

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





遷化し給ふ時 將軍家房光公大僧正の遺
 茅竹林房權僧正盛憲最教院權僧正見海
 雲蓋院權僧正豪倪等を 營中女子に
 阿部忠秋 釣命を傳へて日光山にあり地
 より奉藏せんと三僧正答ていづく起墳奉藏
 の地は大黒山佳也 因て毘沙門堂公海
 釣命を傳へ山に圖形をまうけ 上陸見
 入奉り十月五日黄昏に及ひて全身を沐浴
 し給へ收棺し奉る 上使として中根壹岐守

正盛東叡山より来りて焼香供養に同六日
 寶棺を東叡山より出し奉り松平右衛門左
 源正綱の命し給へ行旅乃供奉并に喪事と
 鑿護せしむる時尾張紀伊水戸御三家并に
 藤堂高次秋元富朝等各々英士一人をし給
 寶棺を供奉せしむる以外諸徒一千餘人供奉に
 時寺社奉行安藤右京進源重長同松平出
 雲守源勝隆風子東叡山に登りて寶棺を
 送り門外より出同七日黄昏に及ひて鹿沼藥王寺

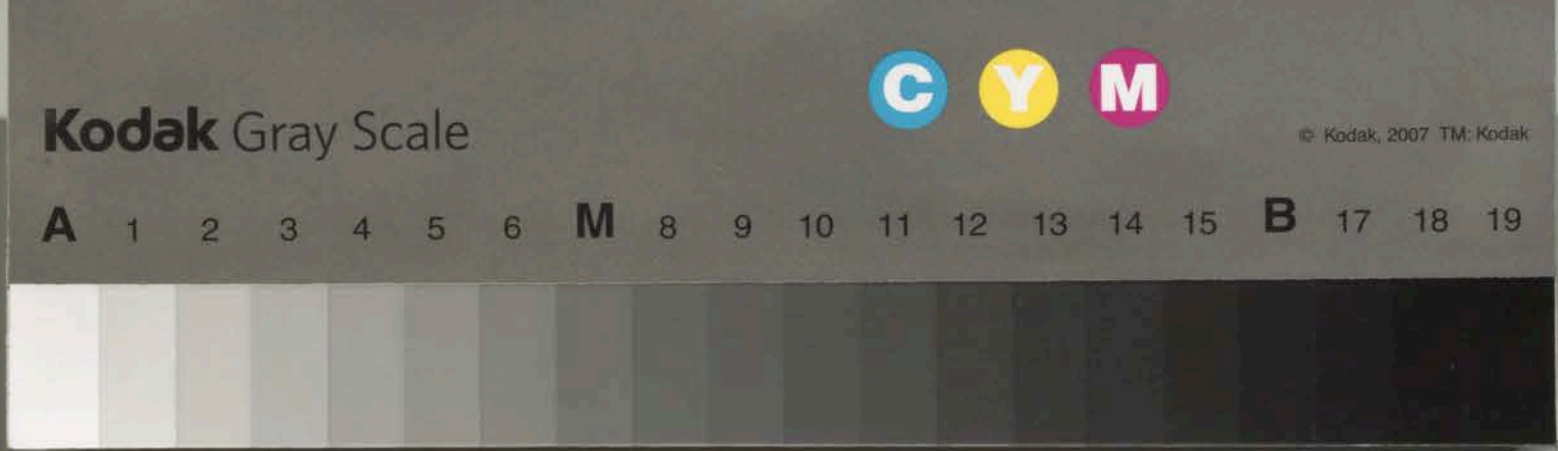
押原推移録下ノ卷

廿九

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





八御あり同日日光山の道俗一千餘人鹿沼
 山々宗向同日寶棺を日光山の本坊に入奉り同
 黄昏妙道院の釋迦堂に移し奉り同十二日
 中陰の法事を始む初七日ありて去
 良源義冬を上使として白銀三百枚を吊
 贈せしむるに家并下下の刺史及び邑宰等
 使者を以て吊喪に依り命關東自他の諸
 徒悉く来集して誦經焼香は同月十七日
 大黒山乃石窟に築し奉り同十一月朔日諸門
 主乃使僧山門五畿内の諸徒焼香誦經に
 鹿沼薬王寺辨雄法印登山して誦經奉納
 あり又鎌倉山護國院に於て盡七日の追福
 を設く雜掌人等ハ 將軍家より御沙汰
 ありし時ハ 御城下の諸宗増上寺を始り
 て誦經焼香あり 御法會の間上使を以て
 未だ阿彌慶安元年 將軍家より執奏あり
 て同年四月十一日大海を总眼大師と謚稱
 を給ふ 勅使五條少納言菅原為肅大黒山

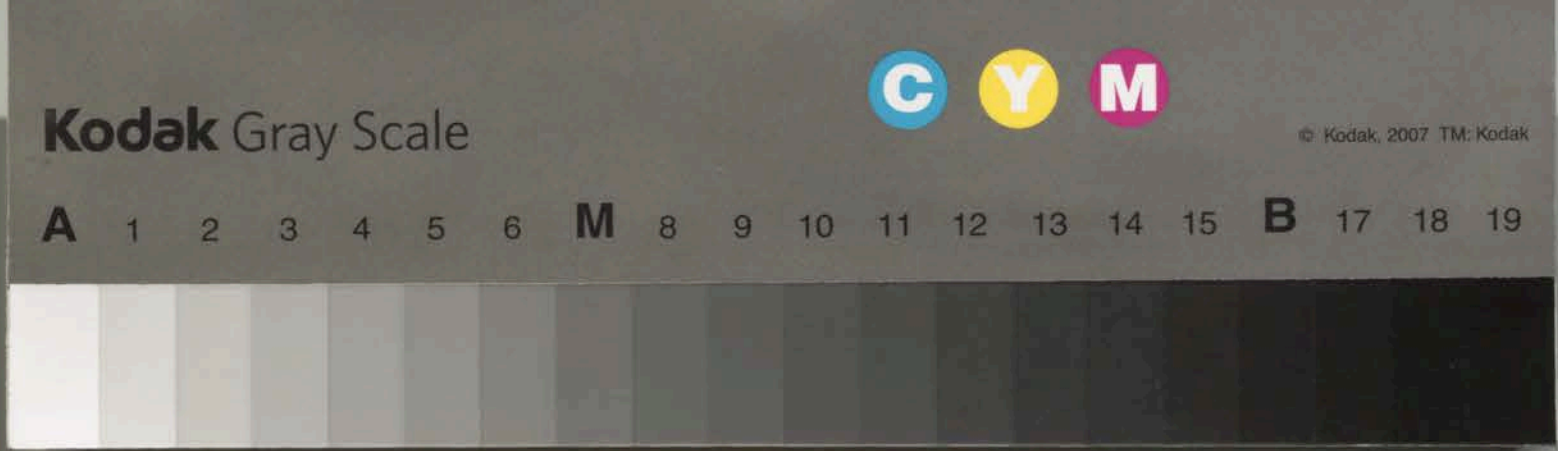
押原推後録下ノ巻終

四十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





の廟前子玉を種了 詔牒をよみて給ふ酒井
 源忠勝吉良侍従義冬 鈞命を蒙りて
 退謚乃儀式を拾技とす 詔牒をよみて給ふ酒井
 源忠勝吉良侍従義冬 鈞命を蒙りて
 退謚乃儀式を拾技とす 詔牒をよみて給ふ酒井
 源忠勝吉良侍従義冬 鈞命を蒙りて
 退謚乃儀式を拾技とす 詔牒をよみて給ふ酒井

押原推移録卷之下 大尾

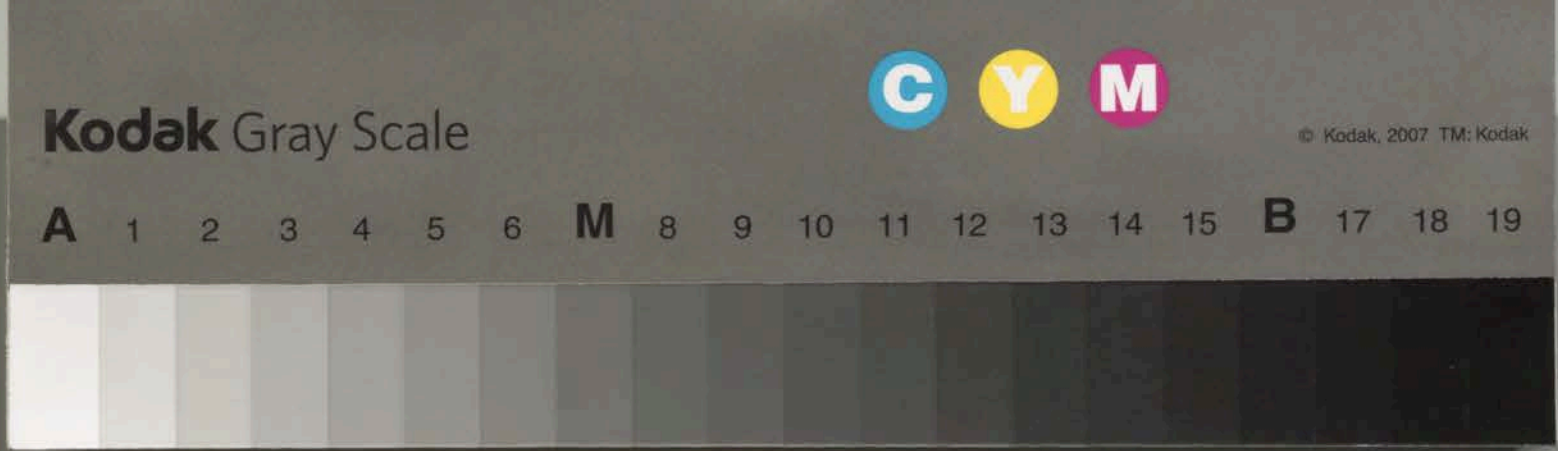
押原推移録後書
 靈治波布神代乃くは日中紀
 古より子甲振人此世になつては
 古より書に跡を或の由より風を
 阿の首より葉のより流云流て
 流くより流くより云流くより
 流くより流くより流くより流く
 流くより流くより流くより流く
 流くより流くより流くより流く

押原推移録
 志一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録
 未二

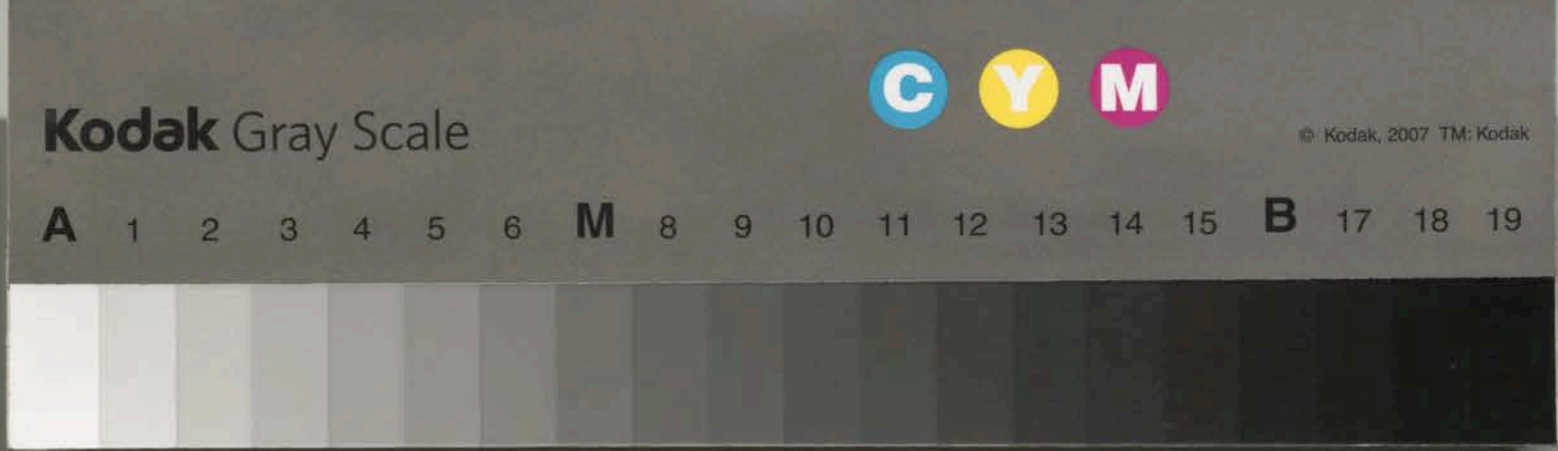
ことなるもたつてはみそを有らば
 山彦もあらはし人いさぬの世業を
 しようものしむむむむむむむむむむ
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう

ことなるもたつてはみそを有らば
 山彦もあらはし人いさぬの世業を
 しようものしむむむむむむむむむむ
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう
 多きものえうううううううううう
 少しものえうううううううううう

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録
赤三

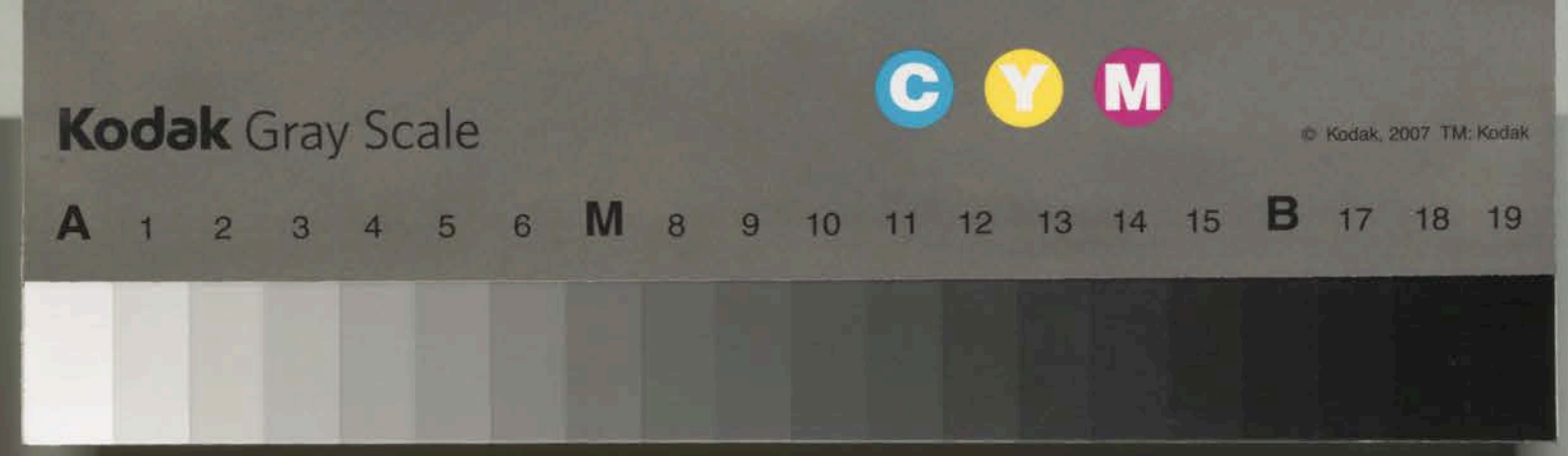
此書は事しむるを記ししなり
ゆゑに之を漢字書に記ししなり
あつては之を記ししなり
多む首を記ししなり
ゆゑに之を記ししなり
三つありしは世に記ししなり
は國の記ししなり
壬生氏に城に記ししなり

跡ふさぬらふのせれゆゑ
よとは考畑垣田におくを
たのぬ鳥羽まの黒川水の清き
みかゝるを志ししなり
いひたるは何れも記ししなり
たしむるは記ししなり
古き書に記ししなり
しるあゝかゝるの記ししなり

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





押原推移録

河つめ、またたふい三巻と押原推移録
 考合そ致の事系つてううに記し
 出身そてけらの吉しと成た川ぬいり
 一のこおしなるよいつら志長久志
 家れりまふれはさくしあも傳ん
 記しそまらの人をとささしそ
 らとけくし一巻のぬれ祿もらうよ
 川つめ、またたふい三巻と押原推移録

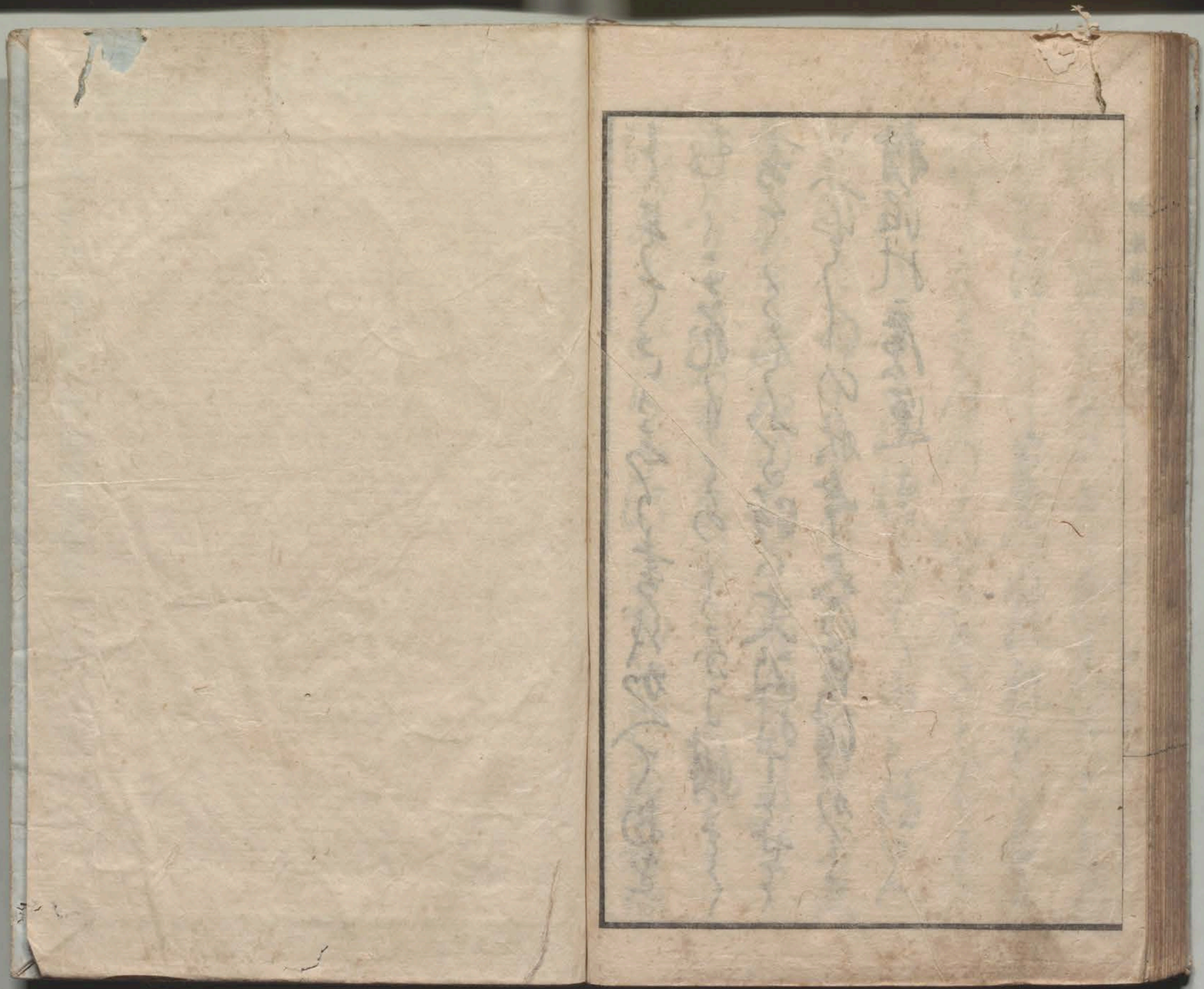
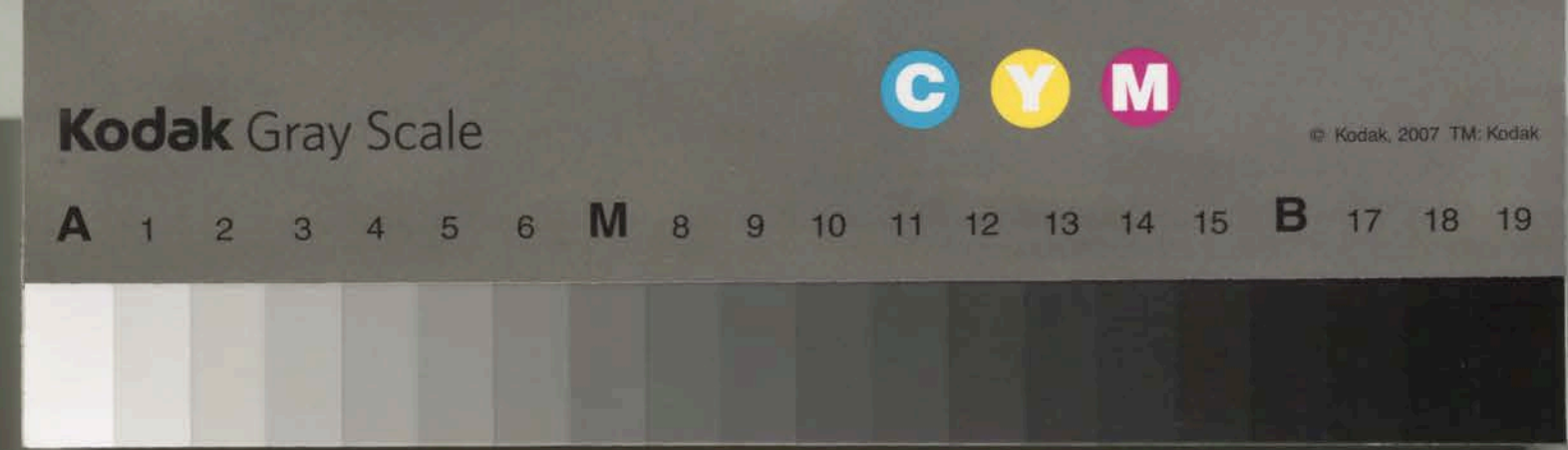
と早そてころ志り書成かておを
 むくそ花りああさかよはさく
 書そくそあつ時ハ文政れ十とせと
 ぶゆし一の秋今文の賞はかさ
 材浪れ廣運

○ 未四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

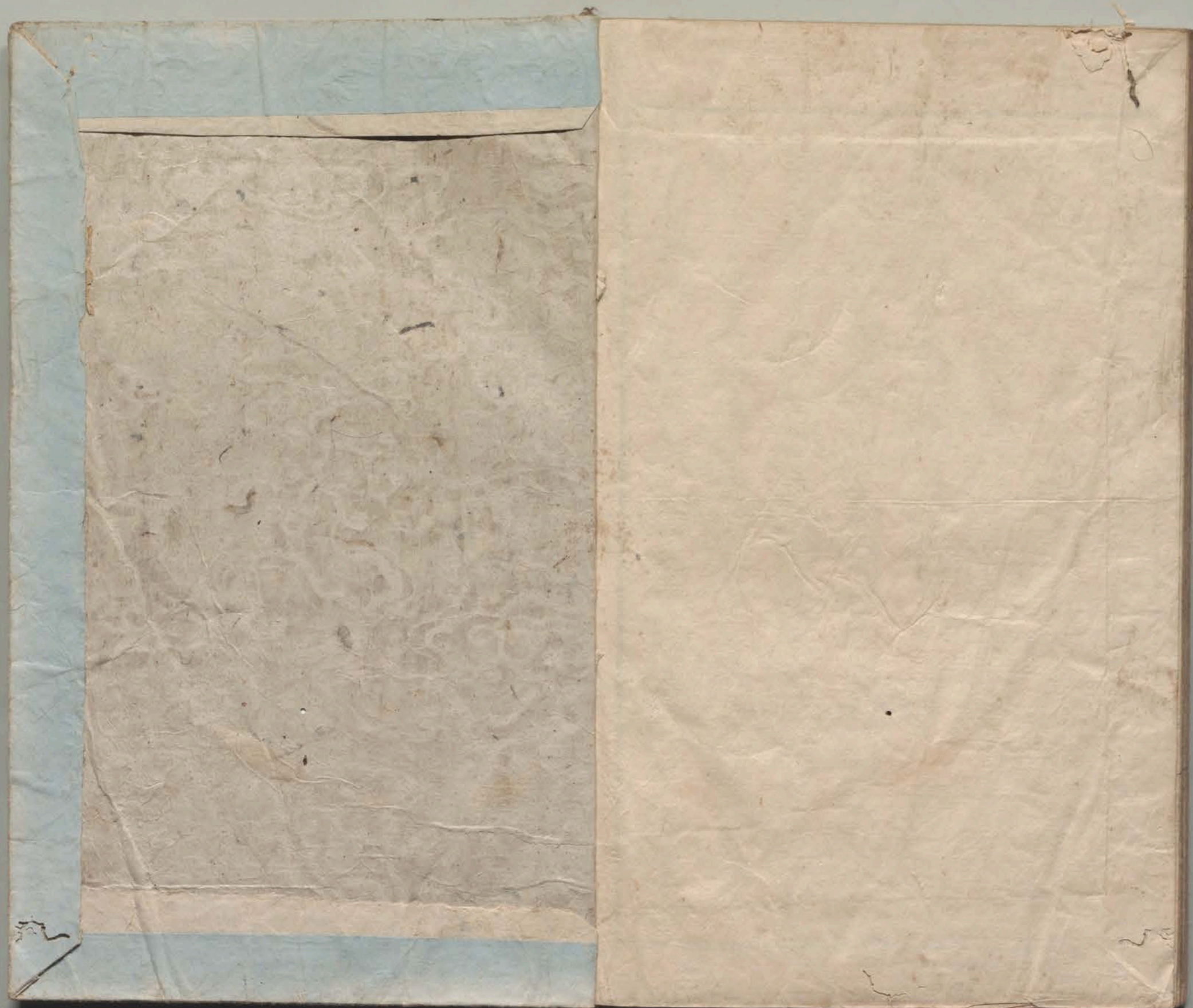
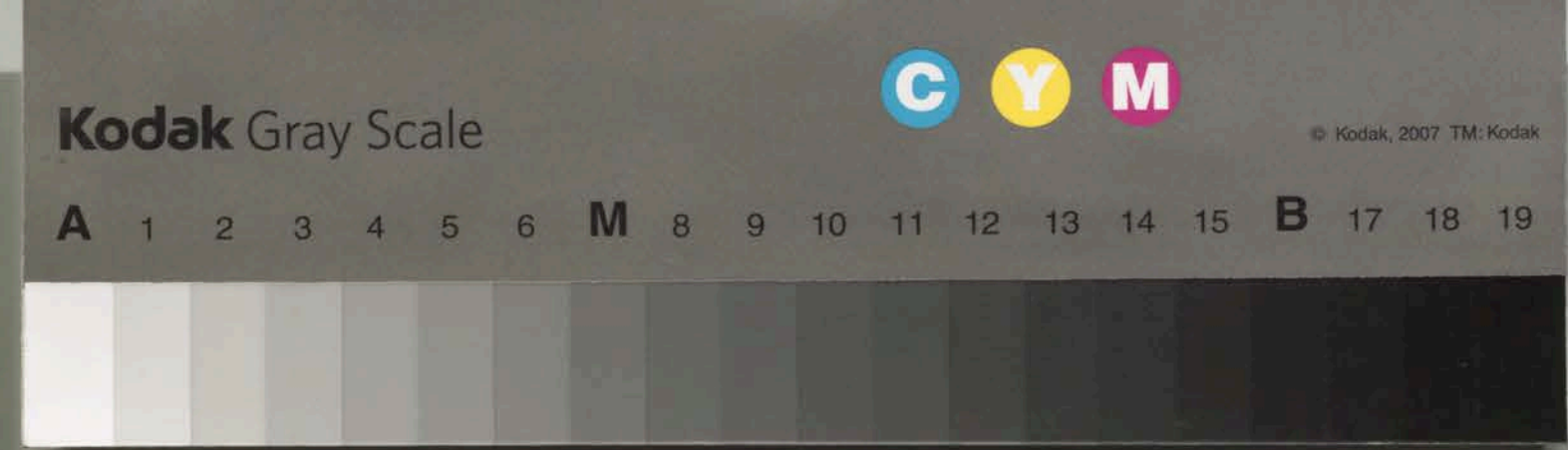




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

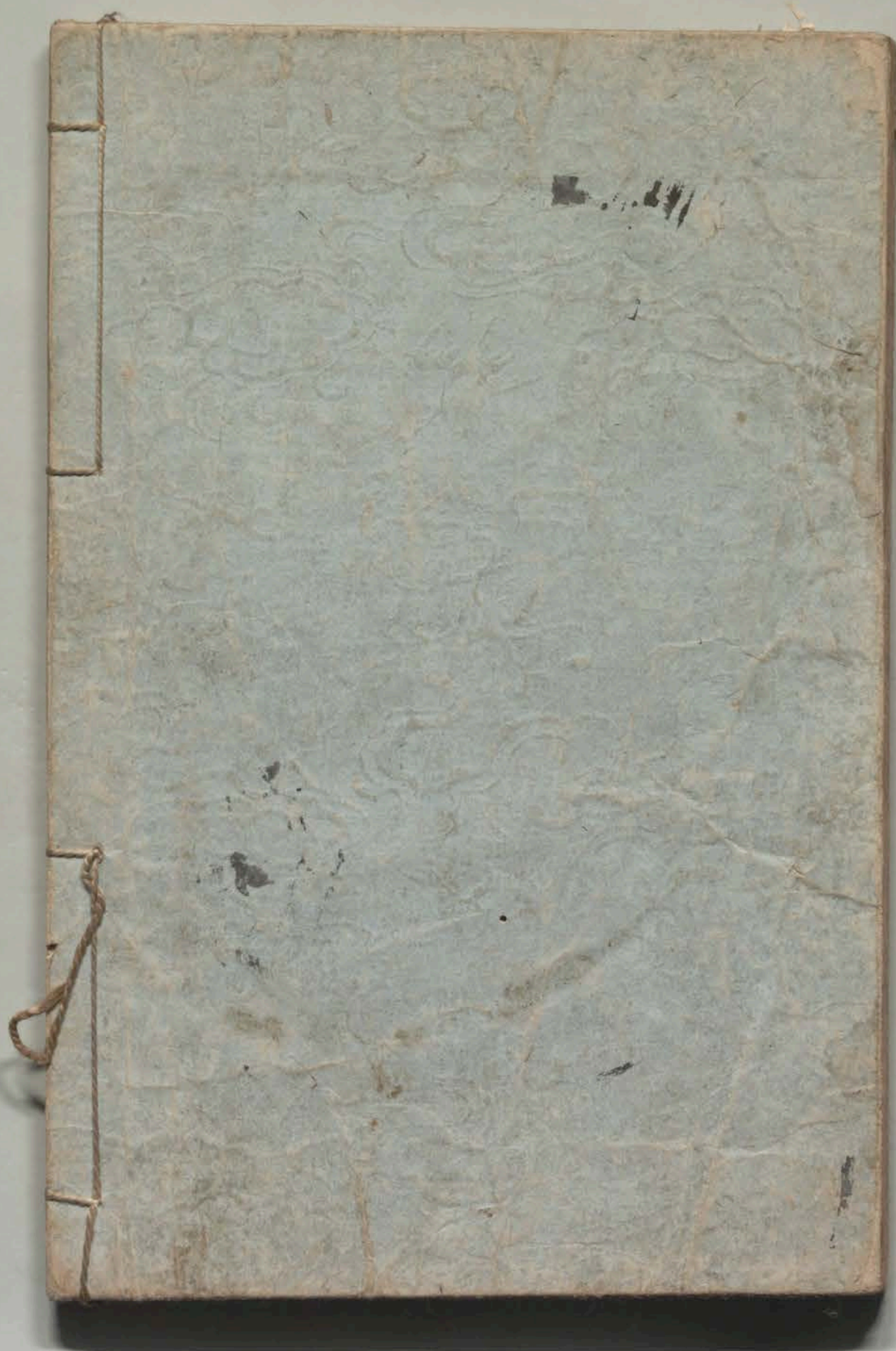
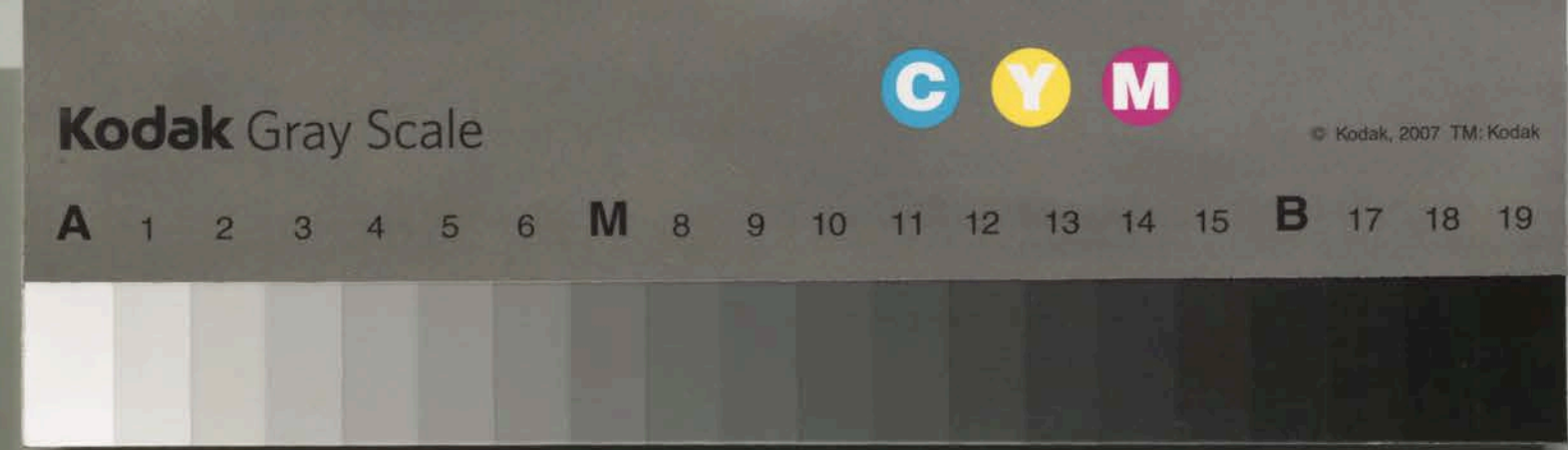




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3





142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-3

